2022年度

国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies
Seminar Syllabus

明 治 大 学

Meiji University

目　　次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi? ･･････････････････････････････････ 2

2. 演習入室試験について（日本語版）
演習入室試験日程･･ 4
演習入室試験受験上の注意･･ 6
演習入室試験申込手続･･ 7

3. Screening Information (in English)
Screening Schedule･･ 10
Important Notes･･ 12
Application procedure for the Screening･･ 13

4. 2022 年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2021 ･･････ 15

5. 演習概要（教員別）/ Seminar syllabus
01 ヴァシリューク, スヴェトラーナ/VASSILIOUK, Svetlana ･･････････････････････････ 16
02 鵜　戸　　聡 /UDO, Satoshi･･ 17
03 呉　　在　垣 /OH, Jewheon･･ 18
04 大　矢　政　徳 /OYA, Masanori ･･ 19
05 小笠原　　泰 /OGASAWARA, Yasushi ･･ 20
06 尾　関　直　子 /OZEKI, Naoko･･ 22
07 小　野　雅　琴 /ONO, Makoto ･･ 23
08 岸　　磨貴子 /KISHI, Makiko ･･ 24
09 金　　ゼンマ /KIM, Jemma ･･ 25
10 クエク, マーリ　J.N.H./QUEK, Mary･･ 26
11 琴　仙　姫 /KUM, Soni･･ 27
12 小　谷　瑛　輔 /KOTANI, Eisuke･･ 29
13 小　林　　明 /KOBAYASHI, Akira･･ 30
14 小　森　和　子 /KOMORI, Kazuko･･ 31
15 酒　井　　信 /SAKAI, Makoto･･ 32
16 佐　藤　　郁 /SATO, Iku ･･ 33
17 鈴　木　賢　志 /SUZUKI, Kenji･･ 34
18 瀬　川　裕　司 /SEGAWA, Yuji ･･ 35
19 田　中　絵　麻 /TANAKA, Ema･･ 36
20 田　中　牧　郎 /TANAKA, Makiro･･ 37
21 張　　競 /CHO, Kyo ･･ 38
22 長　尾　　進 /NAGAO, Susumu ･･ 39
23 萩　原　　健 /HAGIWARA, Ken･･ 40
24 廣　森　友　人 / HIROMORI, Tomohito･･ 41
25 藤　本　由香里 / FUJIMOTO, Yukari ･･ 42
26 眞　嶋　亜　有 / MAJIMA, Ayu ･･ 43
27 溝　辺　泰　雄 /MIZOBE, Yasuo ･･ 45
28 美濃部　　仁 /MINOBE, Hitoshi･･ 47
29 宮　本　大　人 /MIYAMOTO, Hirohito･･ 48
30 森　川　嘉一郎 /MORIKAWA, Kaichiro･･ 49
31 山　脇　啓　造 /YAMAWAKI, Keizo･･ 51
32 横　田　雅　弘 /YOKOTA, Masahiro･･ 52
33 渡　　浩　一 /WATARI, Koichi･･ 53
34 ワルド, ライアン/WARD, Ryan･･ 54

ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長
鈴木　賢志

ゼミとは何でしょう。正直なところ、この学部で教え始めたばかりのころ、私はよく分かっていませんでした。実は、私は自分の学生時代にゼミという形式の授業を半年しか受けたことがありません。その時は先生の著書を分担して読み、それに関連してそれぞれ調べたことを発表するというものでした。その後、私は長らく海外の大学で過ごしましたが、学生としても教員としても、ゼミという形式の授業を経験することはありませんでした。ゼミというスタイルは、国際的にはかなり特殊な学びの形なのです。帰国して明治大学国際日本学部で教えるようになり、初めてゼミの学生の募集案内を書いた時には、ずいぶん悩みました。日本での教育経験が長い何人かの先生に「ゼミって、何をすれば良いのでしょう」と聞いてみると、「君のやりたいようにやればいいんだよ」と、何とも答えになっていないような答えが返ってきて、途方に暮れてしまったことをよく覚えています。

それから長い月日が経ち、今年はとうとう１３回目の募集となりました。これまでの試行錯誤と経験によって分かったのは、やはり結局は「やりたいようにやればいい」なのだ、ということでした。すなわち、一人一人の教員が、それぞれの専門的な見地から自分が最も有益であると信ずる教育を行うことが、学生のみなさんが充実した学びを得るための最善の方法だということなのです。

ただし、いくら教員が手をつくしても、みなさんが待ちの姿勢で「学ばせてもらう」のを待っているのでは、2 年かけても何も得られません。ゼミが少人数であることの利点は、きめ細かく教えてもらえることだけではありません。あなたがどのような興味関心を持って、その教員から何を教わりたいのかを、しっかりと伝える機会を得られるということなのです。そして、それはあなた自身がしっかり考えなくてはならないことです。

なお、ゼミは個人ではなくグループで活動することも忘れてはなりません。そのことは、時としてあなたの行動を制約することになるかもしれません。けれども互いに協力し、切磋琢磨し合うことで得られるものは非常に大きいのです。さらにゼミを通じて得られるつながりは、将来にわたって続く、かけがえのない財産となります。

本学部の多くの皆さんが、ゼミを通じて新しい学びを体得し、また新しい出会いを育むことができるよう、心から願っています。

What is zemi?

Kenji Suzuki
Dean, School of Global Japanese Studies

What is zemi? To be honest, I did not have the answer when I started to teach at this School. In fact, I took a zemi class for only one semester when I was a student myself. At that time, we merely read a book of the teacher and presented a research only in brief. I was at non-Japanese universities thereafter, and I had no zemi either as a student or as a teacher. After all, zemi is very unique of Japan. When I came back to Japan to teach at this School, I had no experience of zemi. Hence it was very difficult for me to write a syllabus of zemi. I remember that I asked my older colleague what I should do for zemi, and that the answer was “You can do whatever you like” - I was at a loss in the end.

Long time has passed since then, and this is the 13th time of our zemi guidance. After many trials and errors and various experiences, I have now concluded that it is best to do whatever I like. I now believe that it is best for our teachers, as highly qualified experts of their own fields, to do whatever they like, so that they can provide the best education for the students.

However, you cannot get anything, even taking two years, if you just wait “to be learned”. Zemi is composed of a small number of students, and that is beneficial to you not only because you are cared more in class, but also because you have more chances to express what you are interested and what you expect to learn. Of course, you have to prepare yourself for that.

Having said that, you have to remember that zemi acts as a group, and that is not an individual lesson. That might be a restrict at times, but you may well gain valuable experiences from cooperation and mutual development by various group-based activities.

I sincerely hope that many of you at this School will learn new things and meet many new people with zemi, which help you develop even further.

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験日程

１　演習入室選考試験ガイダンス動画/演習紹介動画　配信

日程：１１月１０日（水）１０：００～

方法：WEB 配信

２　入室選考試験

（１）一次募集

①個別ガイダンス　１１月２２日（月），２４日（水），２５日（木）

［実施日時・会場］Zoom を使用したオンライン形式で実施。

※詳細は後日 Oh-o! Meiji で配信します。

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付　１１月２２日（月）１２：００～１１月２５日（木）２３：５９

［申込方法］Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験　１２月４日（土）１０：００～

［試験会場］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

④合格発表　１２月８日（水）

［発表場所］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

（２）二次募集

①個別ガイダンス　１２月１４日（火）～１２月１６日（木）

［実施日時・会場］Zoom を使用したオンライン形式で実施。

※詳細は Oh-o! Meiji で配信します。（1 次募集　合格発表時）

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付　２０２２年1月１０日（月）１２：００～1月１２日（水）２３：５９

［申込方法］Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験　２０２２年1月２２日（土）１０：００～

［試験会場］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

④合格発表　２０２２年1月２５日（火）

［発表場所］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

（３）三次募集

２０２２年度４月に実施します。詳細は後日お知らせします。

3　留学をしている学生について

2年次秋学期/3年次春学期に留学している場合でも，留学しない他の学生と同じ日程および方法で手続きを行う必要がありますので注意してください。また，試験や申込受付等の時間はすべて「日本時間」を基準に行われます。十分に注意してください。

入室試験は各演習担当教員が個別に実施します。なお，試験については留学しない学生と同じ日程で実施する予定ですが，時差等による配慮を希望する場合は，E-mail等で演習担当教員へ各自,依頼をしてください。

2.　演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験受験上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

1　各演習の募集人員は，10～21 名です。

2　入室試験の申し込みは，**Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して，**各期限内に手続きをしてください。
締切厳守。期限を過ぎた場合，申し込みをすることはできません。

3　締切後に Oh-o!Meiji のグループを作成します。アンケートに回答した演習のグループに入っているか確認をしてください。

4　演習入室試験日程等演習に関係する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji で配信します。
演習入室試験実施期間中は，随時確認するようにしてください。

5　同一募集期間内に複数の演習を受験した者は，**すべて無効（不合格）**となります。

6　**合格が決定した者は，それ以降の受験資格を失います。**ただし，４月に募集する演習への入室試験に限り，既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得たうえで，受験することが認められます。

7　４月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし，もし今回の演習入室試験に合格した上で４月に募集する演習を受験するためには，既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得なければなりません。
４月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は，今回受験する予定の教員に，個別ガイダンス等を利用して，事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。

8　担当者の都合で３年次のみ開講する場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験申込手続

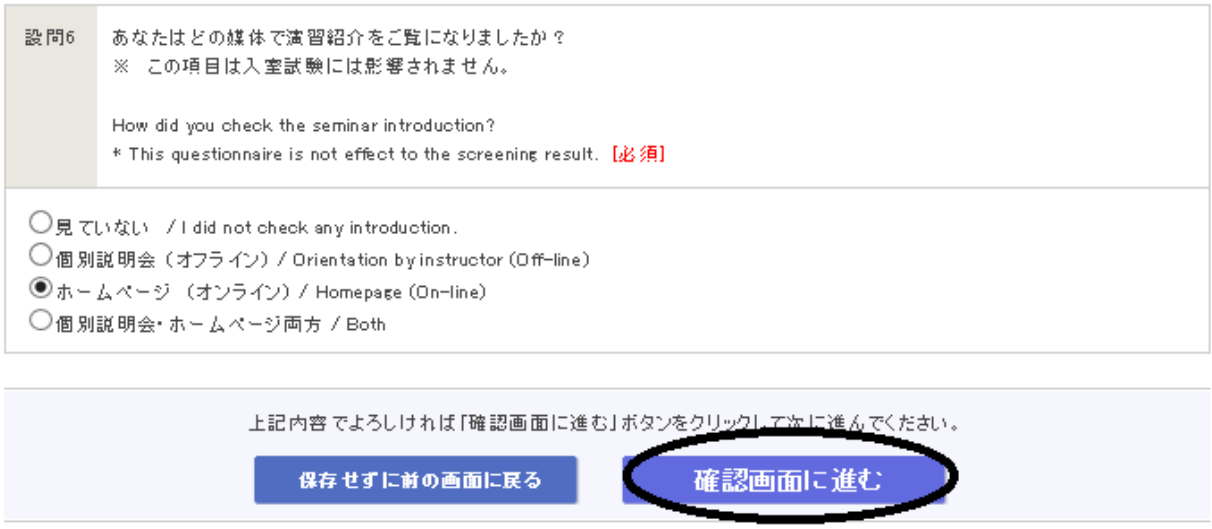
入室試験（一次・二次）の申し込みは，Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

1　「Oh-o! Meiji システム」(https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには，共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受付けません。

2　自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら，アンケート「2022 年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

３「2022 年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので，
　必要情報を全て入力してください。

４　すべて入力したら，「確認画面に進む」を選択してください。<u>※まだ申込完了ではありません。</u>



5　入力内容の確認画面が表示されますので，必ず入力内容を再度，確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し，修正してください。

入力内容確認画面を確認後，「回答する」をクリックすれば，申込完了です。

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが，二次申込手続きも同様の手続きとなります。

3. Screening

Screening Schedule

1 Online videos: Seminar Screening guidance video / Seminar Introduction videos

The videos will be available from Wednesday, November 10

Please check the website.

2 Seminar Screening

(1) Period 1

① Seminar guidance: Monday, November 22, Wednesday, November 24, and Thursday, November 25. Each seminar will give an introduction guidance via Zoom.

*We will announce details on Oh-o! Meiji.

*Taking part in this guidance may be one of the conditions for joining some seminars.

② Application: From Monday, November 22, 12 pm (noon) – Thursday, November 25, 11:59 pm (night)

You can apply by answering the Oh-o! Meiji questionnaire.

③ Screening: Saturday, December 4, starting from 10 am

Details will be announced in each Oh-o! Meiji group.

④ Results: Wednesday, December 8

Results will be announced in the same Oh-o! Meiji group.

(2) Period 2

① Seminar guidance: Tuesday, December 14 - Thursday, December 16

Each seminar will give an introduction guidance via Zoom.

*We will announce details on Oh-o! Meiji, with the screening results for Period 1.

*Taking part in this guidance may be one of the conditions for joining some seminars.

② Application: Monday, January 10, 12pm (noon) - Thursday, January 12, 11:59 pm.

You can apply by answering the Oh-o! Meiji questionnaire.

③ Screening: Saturday, January 22, from 10 am

We will announce details in an Oh-o! Meiji group.

④ Results: Tuesday, January 25

Results will be announced in the same Oh-o! Meiji group.

(3) Period 3

The third period will be in April 2022. Details will be announced when decided.

3 For students studying abroad

Even if you study abroad in the Fall Semester of your second year or the Spring Semester of your third year, you must also follow the same schedule and procedures as other students. Please note that all dates and times are in Japan Standard Time (JST).

Each instructor will conduct screening individually. We will generally hold the screening with the same schedule as other students. However, please contact each instructor by email if you need consideration for the time difference or other issues.

3. Screening

Notes for application

Please make sure to read before you apply.

1 Each seminar will accept up to 10 to 21 students.

2 Please apply for Seminar Screening by answering the **Oh-o! Meiji questionnaire during each application period.** You cannot apply after the deadline.

3 We will create an Oh-o! Meiji group for each seminar after the deadline, so please check that you are in the seminar group you applied for.

4 We will send you all notices with Oh-o! Meiji, so please check your messages regularly.

5 You can only apply for one seminar during each period. If you apply for more than one seminar during a single period, all results will be invalid.

6 If you pass a screening for a Seminar, you can no longer apply for screening in the next period. However, if there are new seminars available in April, you can apply. If you wish to change your seminar in April, please seek approval from the instructor of the first seminar.

7 It is generally possible to apply for screening at this time, even if you intend to join later a seminar that has screening in April. However, if you pass the screening in the Fall Semester, you will need the approval of the first seminar's instructor before you can apply to the new seminar. If you already plan to apply for a new seminar in April, make sure to confirm in advance with the first seminar's instructor, during seminar guidance, etc., whether this will be permitted.

8 There may be seminars that will only be held in your third year (two semesters). Details will be announced in the guidance of each seminar.

3. Screening

Application

For Period 1 and Period 2, please apply for the seminar screening from the Oh-o! Meiji questionnaire.

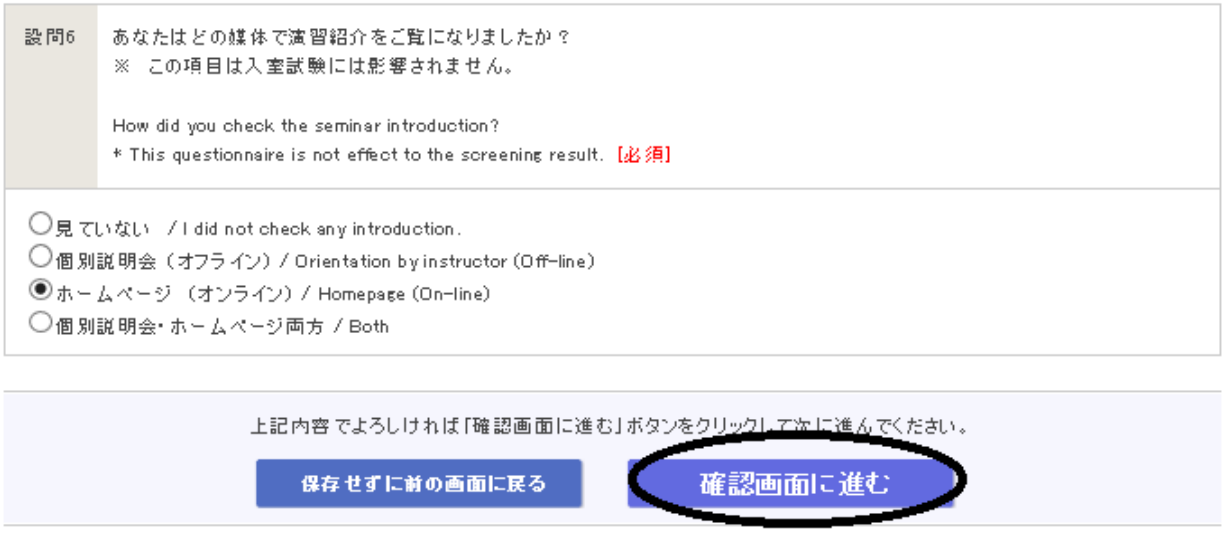
Instructions

1 Login to Oh-o! Meiji: https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index

2 Choose [2022 年度演習入室試験一次申込手続き] (Application for Seminar Screening 2022) and go to the next page.

3 Fill out the required fields marked in red.

4　After you complete all questions, click “[確認画面に進む](Next). <u>You have not finished yet”.</u>



5　Make sure to re-check your answers on the screen. If anything is wrong, choose [前に戻る](Back). If everything is correct, choose [回答する](Submit).

※You can change the information you registered until the deadline.

2022年度 演習一覧
AY2022 List of seminar

担当者氏名 Lecturer	紹介動画 Movie	職名 Title	担当科目 Lecture Course	テーマ Theme	開講言語 Language
ヴァシリューク, スヴェトラーナ VASSILIOUK, Svetlana	-	教授 Prof.	国際関係論 International Relations	Contemporary International Relations in Northeast Asia with the focus on Japanese Foreign Policy	英語 English
鵜戸 聡 UDO Satoshi	-	准教授 Associate Prof.	フランス文化論 French Culture Studies	人文知と「近代」	日本語 Japanese
呉 在恒 OH Jewheon	★	教授 Prof.	日本的ものづくり論 Japanese Manufacturing Management	日本企業の研究	日本語 Japanese
大矢 政徳 OYA Masanori	-	准教授 Associate Prof.	英語学 English Linguistics	コーパス言語学	日本語 Japanese
小笠原 泰 OGASAWARA Yasushi	★	教授 Prof.	日本のビジネス文化 Business Culture in Contemporary Japan	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える	日本語 Japanese
尾関 直子 OZEKI Naoko	●	教授 Prof.	応用言語学 Applied Linguistics	第二言語習得と言語教育	日本語又は英語 Japanese or English
小野 雅琴 ONO Makoto	-	講師 Senior Assistant Prof.	広告とメディア Advertising Practice and Media Studies	広告の理論実証研究	日本語 Japanese
岸 磨貴子 KISHI Makiko	●	准教授 Associate Prof.	インターネットと社会 Internet and Society	教育工学/学習環境デザイン	日本語 Japanese
金 ゼンマ KIM Jemma	★	准教授 Associate Prof.	アジア太平洋政治経済論 Asia-Pacific Political Economy	グローバリゼーションとアジア太平洋の政治経済	日本語 Japanese
クエク マーリ QUEK Mary	-	特任准教授 Associate Prof.	ホスピタリティ・マネジメント論 Hospitality Management Studies	Project based learning in the hospitality and travel industries	英語 English
琴 仙姫 KUM Soni	-	特任講師 Senior Assistant Prof.	メディア・アート Media Arts	Contemporary Art / Film and New Media / Curatorial Practices / Performance	英語 English
小谷 瑛輔 KOTANI Eisuke	★	准教授 Associate Prof.	近現代日本文学 Modern Japanese Literature	日本近現代の文学/文化	日本語 Japanese
小林 明 KOBAYASHI Akira	●	准教授 Associate Prof.	国際教育交流論 International Education and Exchanges	国際教育交流の理解と実践	日本語 Japanese
小森 和子 KOMORI Kazuko	★	教授 Prof.	日本語教育学（語彙） Japanese Language Teaching (Vocabulary)	第二言語としての日本語の語彙習得	日本語 Japanese
酒井 信 SAKAI Makoto	●	准教授 Associate Prof.	日本のジャーナリズム Journalism in Japan	メディア文化論、ジャーナリズム研究、情報社会論	日本語 Japanese
佐藤 郁 SATO Iku	★	講師 Senior Assistant Prof.	ツーリズム・マネジメント Tourism Management	観光地のマネジメント／インバウンド観光	日本語 Japanese
鈴木 賢志 SUZUKI Kenji	●	教授 Prof.	日本社会システム論 Japanese Social Systems	北欧国家の社会システムと社会心理ー日本との比較から学ぶこと	日本語 Japanese
瀬川 裕司 SEGAWA Yuji	★	教授 Prof.	映像文化論 Film Studies	高度な批評能力を身につける	日本語 Japanese
田中 絵麻 TANAKA Ema	★	講師 Senior Assistant Prof.	テクノロジーと日本社会 Technology and the Japanese Society	コンテンツ産業論	日本語 Japanese
田中 牧郎 TANAKA Makiro	●	教授 Prof.	日本語学 Japanese Linguistics	日本語の歴史と現在	日本語 Japanese
張 競 CHO Kyo	★	教授 Prof.	比較文化学 Comparative Culture	比較文学・比較文化特別研究	日本語 Japanese
長尾 進 NAGAO Susumu	●	教授 Prof.	武道文化論 Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)	スポーツと現代社会	日本語 Japanese
萩原 健 HAGIWARA Ken	★	教授 Prof.	舞台芸術論 Performing Arts	"Performances" in Daily Life and Art Scenes	日本語又は英語 Japanese or English
廣森 友人 HIROMORI Tomohito	●	教授 Prof.	心理と言語 Psychology and Language Learning	言語学習の心理学 (Language Learning Psychology)	日本語又は英語 Japanese or English
藤本由香里 FUJIMOTO Yukari	★	教授 Prof.	漫画文化論 Manga Culture	サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会	日本語 Japanese
眞嶋 亜有 MAJIMA Ayu	★	講師 Senior Assistant Prof.	日本表象文化論 Japanese Representational Arts	学際的日本研究 ～ゼミでGlobal Japanese Studiesを極めてみる～	日本語 Japanese
溝辺 泰雄 MIZOBE Yasuo	★	教授 Prof.	世界のなかのアフリカ Africa in the Contemporary World	地域研究(Area Studies): 食と旅から世界を知る	日本語 Japanese
美濃部 仁 MINOBE Hitoshi	★	教授 Prof.	宗教と哲学 Religion and Philosophy	哲学	日本語 Japanese
宮本 大人 MIYAMOTO Hirohito	●	教授 Prof.	日本漫画史 History of Japanese Comics	メディアと大衆文化/サブカルチャー	日本語 Japanese
森川嘉一郎 MORIKAWA Kaichiro	★ JPN ★ ENG	准教授 Associate Prof.	日本先端文化論 Otaku Culture	マンガ・アニメ・ゲーム/デザイン/都市	日本語又は英語 Japanese or English
山脇 啓造 YAMAWAKI Keizo	●	教授 Prof.	多文化共生論 Issues in Intercultural Communities	多文化共生のまちづくり	日本語 Japanese
横田 雅弘 YOKOTA Masahiro	●	教授 Prof.	異文化間教育学 Intercultural Education	ヒューマンライブラリーの実施とライフストーリーの執筆	日本語 Japanese
渡 浩一 WATARI Koichi	●	教授 Prof.	日本の文化伝統 Japanese Cultural traditions	ニッポンの歴史と文化	日本語 Japanese
ワルド, ライアン WARD Ryan	-	講師 Senior Assistant Prof.	比較宗教論 Comparative Religious Studies	「死」の日本宗教史	日本語又は英語 Japanese or English

★：Oh-o!Meijiでのみ公開　　●：HP上でも公開

01 ヴァシリューク, スヴェトラーナ VASSILIOUK, Svetlana 教授 Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar offers lectures, discussions, and readings on Japan's contemporary foreign policy with the focus on the Asia-Pacific Region (the APR), while reflecting on the history, policy foundations, and contentious issues in Japan's relations with the region's major powers. During the two years in this seminar, students will participate in field trips, attend public talks, and prepare summaries, short reports, and news analyses pertaining to the topics covered in class. At the end of the 4th year, they are expected to write and present a research paper (thesis) covering one of the difficult and/or unresolved issues in Japan's foreign relations in the APR.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞This seminar will begin with an overview of Japan's history of foreign relations, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding Japan's contemporary international relations in the APR. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as: imperialism in East Asia and Japan's participation in major military conflicts of the 19th-early 20th centuries; the Pacific War (1937-1945) and its legacy in Japan and abroad focusing on Japan's war remembrance, reconciliation efforts, and other key issues in its relations with the APR countries.

＜4 年次 / 4th Year＞The seminar will continue tracking key issues in Japan's contemporary relations with the APR major nations, while paying special attention to the rise of China and the impact of the declining power of the US in regional and global affairs. In preparation for the seminar's final research project, students will study the origins, the history of negotiations, and the prospects for the settlement of Japan's contentious issues in the APR.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis - Yes, required

(3) 評価方法 / Evaluation

＜ 3 年次 /3rd Year ＞ News Portfolio 30%; Short Reports 30%; Presentations & Summaries 20%; Participation 20%

＜ 4 年次/4th Year＞Thesis 60%; Presentations & Summaries 20%; Participation 20%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

TBA; other course reading materials will be distributed on the Oh-o!Meiji Class Web.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

This seminar will be in English only. Students should have adequate English language skills to do well in this seminar (recommended minimum scores of TOEFL iBT 68, TOEIC 700, or IELTS 5.5).

5. 選考方法 / Screening

The students will have to write a short essay in English describing their interest in this seminar and its study topics.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

It is highly desirable that the students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations prior to taking this seminar.

7. その他 / Others

Seminar events and additional information will be announced in class.

02 鵜戸聡 准教授

---

1. 演習のテーマ / Theme

「世界」の文学を読む

現在も私たちの世界認識に大きな影響を及ぼしている「国民」や「文化」、「故郷」や「恋愛」といった諸概念は、いつどのように形成され、世界中に広まっていったのでしょうか。また、西欧諸国との接触を通して「近代」を経験した東欧や南米、アジアやアフリカの人々はそれをどのように認識してきたのでしょうか。さらにその延長線上で私たちはどのような時代を生きているのでしょうか。これらは非常に大きな問いではありますが、このゼミでは、19 世紀から 20 世紀にかけて世界中で生まれた近現代文学や映画を通してあれこれと考えてみたいと思います。最終的な目標は、卒業後も自分で本を読みながら「世界」と自分自身との関係を新しく結び直していくことができるような人文知を身につけることです。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

全員で同じ文学作品を会読し、ディスカッションを行います。春学期は、短編集『世界の文学、文学の世界』（松籟社）から毎週一編ずつ短い作品を読みながら、海外文学を読みことに慣れていきましょう。秋学期には、参加者の希望を聞きながら中編・長編に挑戦します。例えば、ハムスン『ヴィクトリア』、カミュ『ペスト』など、世界的に読まれたヨーロッパ文学でもいいし、その影響下に書かれたアジア・アフリカの作品でもいいでしょう。その過程で、背景となる歴史や文化の知識、テクストの緻密な読解方法を学び、小発表を通して論理や表現の訓練を行います。希望があれば街を一緒に歩いてみてもいいでしょう。

＜4 年次 / 4th Year＞

基本的に文学作品の会読を続けますが、希望者がいればゼミ論執筆の指導も行います。その場合は、プレゼンや草稿の共有を通して第三者の観点を参考にしつつ、「自分は気づきつつあるけれども必ずしも他の人には明らかでないこと」をより明確に論じる訓練を行います。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

希望者のみ

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞　毎回全員に発言を求め、その参加度によって評価します。若干のリサーチ発表をお願いすることもありますが、基本的には平常点（100%）の扱いになります。

＜４年次 / 4th Year＞　平常点（100%）ですが、論文を書いた場合は適宜加点を行います。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

奥彩子ほか共編『世界の文学、文学の世界』松籟社、2020 年。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

世界の多様性に真摯に向き合い、さまざまな他者と、自分自身の意識せざる部分に対して好奇心をもって探求すること。文学を読み慣れていなくても大丈夫です。

5. 選考方法 / Screening

面接（希望者多数でなければ基本的に誰でも受け入れます）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

特定の科目の履修を要件にはしませんが、英語によるものだけではない世界の文化や歴史に広く目を向けてください。

7. その他 / Others

コロナ禍の状況とゼミ生の希望に応じてフィールドワークやゼミ合宿を行う場合があります。また、鹿児島大学法文学部とのゼミ間交流を考えています（希望があれば、海外の大学で日本語を学ぶ学生との交流の機会を設けます）。

03 呉 在烜 教授

1. 演習のテーマ / Theme

この演習は、日本企業の主要な活動について勉強し、日本企業のマネジメントについての理解を深めることが目標です。そのために主として日本企業のマーケティング活動や経営戦略、国際経営に関する文献を購読して学習します。製造業だけではく小売業やサービス業など様々な業種の事例を扱う文献を読み、日本企業のマネジメントの特徴を、事例を通じて学びます。

このような学習の過程で自分の関心・興味のある日本企業の活動や問題を探し、それを研究テーマにして卒業までに研究していきます。このテーマ研究の成果は論文の形式、あるいはプレゼンテーション形式（パワーポイント資料）にまとめて提出します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

3 年次の春学期には、身近な事例を扱っているマーケティング関連理論書を読みます。3 年次の秋学期には、多数の業種の事例を取り上げて経営戦略について説明しる文献を購読します。毎回、一人あるいは二人が担当部分の要旨を報告し、皆で議論して理解を深められるように進めていきます。

＜4 年次 / 4th Year＞

4 年次の春学期には、日本企業の海外事業展開に関する文献を読み、日本企業のグローバル経営について学習します。秋学期は、文献購読とともに、各自が自分のテーマ研究の進捗状況に合わせて報告を行い、修正・補完して行きます。演習の終わりころには、最終報告をしてもらいます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり（論文の形式あるいはパワーポイント形式）

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞　平常点（40%）、発表（60%）で行う。
＜４年次 / 4th Year＞　平常点（20%）、発表（30%）、論文（50%）で行う。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

3 年春学期には、『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵著、発行：ちくま新書。
秋学期には、『ゼロからの経営戦略』沼上幹、発行：ミネルバ書房。
4 年次の春学期には、『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕（編）、発行：白桃書房。その他、研究論文(事例研究)も購読します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

企業経営に関心をもち、積極的にゼミに参加できる学生を望みます。
無断欠席は厳禁です。

5. 選考方法 / Screening

書類審査。必要に応じ面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。留学中の場合は別途案内します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

学部開設科目の「経営学 A／B」を履修しておくことが望ましい。

7. その他 / Others

夏休みには海外合宿（3 年次）、国内合宿（４年次）を行う予定です。

04 大矢 政徳 准教授

1. 演習のテーマ

より良いコミュニケーションのための言語学

人間が言葉を使って互いの感情や思想を伝え合い始めて以来数十万年、そのメッセージの内容は実際のところ昔も今もさほど変わってはいないとしても、その手段は多様化・情報化・複雑化の一途をたどっています。“truth”と“fake”の境界線が曖昧になり、「いいね」の数が承認欲求を満たしても孤独感は払拭されない現代において、人間同士のコミュニケーションを深く理解することの重要性は、人間が AI に取って代わられることを良しとするのではない限り、誰の目にも明らかです。そのような文脈の中、本演習では「より良いコミュニケーションとは何か」、つまりは一見当たり前すぎるようにも聞こえるけれど誰もがいつかはどこかで考えなければならない話題について、言語学の観点から少しずつ学んでいきます。本演習で取り上げる主なトピックは、(1)語用論、(2)会話分析、そして(3)レトリックです。コーパス言語学についても触れます。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞

演習のテーマで紹介した(1)～(3)のトピックについて学んでいきます。適宜、個人またはグループでの発表を行います。発表の際に使用する言語は英語とします。3 年次終了までにゼミ論の研究テーマを決定し、一年間の学習の総決算としてレポートを提出します。

＜4 年次＞

ゼミ論作成を進めます。ゼミ論の内容についての発表を行います。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

＜３年次 / 3rd Year＞　授業への参加 50%、発表 30%、レポート 20%

＜４年次 / 4th Year＞　ゼミ論 70%、発表 30%

3. 使用テキスト

串田秀也、平本毅、林誠(著)『会話分析入門』勁草書房

山本英一(著)『ウソと欺瞞のレトリック～ポストトゥルース時代の語用論～』関西大学出版部

4. 応募学生に望むこと

データに基づいて客観的に判断する思考力を養ってください。

5. 選考方法

志望動機書と面接で選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特にありません。

7. その他

05 小笠原　泰　教授

1. 演習のテーマ / Theme

デジタル・テクノロジー革新とグローバル化による世界の Grand Transformation について － 個人と企業と国家の間でのパワーシフトと２０年後に SURVIVE しているためにを考える

社会のシステムは、社会、経済、政治関係によって成りたっていて、歴史的にこの三つの力関係は大きく変化（Grand Transformation）してきています。現在は優位になりつつある経済と権威と支配力（パワー）を失いつつある政治（国家）が対抗している状況と言えるでしょう。

「デジタル･テクノロジー革新と融合したグローバル化」により社会を開いたことで、個人と企業がよりパワーを獲得する一方､国家はパワーを失ってきています｡その中で、先進国では､国家に対してパワーを強めた(自律した)個人とパワーを減じている国家に依存する、パワーが弱まった個人（パワーの低下が止まらない国家は、彼らをパワーの再強化に利用します）への二極化（分断と格差）が進行しつつあります。つまり、国家と企業と個人の３者間のパワーバランスが､「開いた世界」を志向する人々（anywhere）と「閉じた世界」を望む人々（somewhere）との間で異なっているということです。

トランプ大統領を選出した大統領選挙や Brexit の国民投票等の結果が示したように、この分裂は拮抗していて､自分の陣営により多くの人を引き込もうとする綱引きの状態であり、それは現在も続いていると思います。パワーが低下する国家は、国民国家という存在の性格上、より強い主権行使を望むので、コントロールしやすい「閉じた世界」に国民を引き込むことを望みます。事実、国家は、現在進行形のコロナウイルスの世界的蔓延を好機到来とし国家権力の再強化に利用しています｡経済安保をことさら強調していますが、経済的競争力の裏打ちのない国家権力の強化は長くは機能しません。

問題は、今後の世界は「開いた社会」と「閉じた社会」のどちらに向かうかにあると思います。自由民主主義思想（選択肢の拡大と選択の自由）と市場経済を批判するのは構わないのですが、経済力が弱まり、パワーが減じていく国家は、果たして「閉じた社会」を望む人々を救えるのでしょうか。強いアメリカを主張したトランプおよび企業統制を強めるバイデン大統領ですが、かえって、アメリカはイノベーションという成長のモメンタムを失い､国際社会での強さ､そして､権威さえも失うのではないでしょうか。「貧しい民主主義より、豊かな権威主義」を驀進する中国も国家統制を強化する方向に向かうとアメリカと同じ道を歩む可能性が高いでしょう。

ポピュリズムの隆盛の本質は､多様化を認め､変化が当然の「開いた社会」を望む（あらゆる変化に可能性を見いだし、国を消極的にしか必要としない）人々と、多様化を認めず変化を拒否する「閉じた世界」を望む（あらゆる変化をリスクに感じ、国を積極的に必要とする）人々の分裂が起きているということです。かつてのように、国境という高い壁を前提に国家が主権を単独で行使し、そのなかで企業・市場と国民（個人）と国家のインタストは当然一致するという三位一体的な考えは急速に弱まりつつあると言えます。事実、自由民主主義思想がグローバルな形で個人や企業・市場に共有化される中で、国家のパワーの低下と言う大きな流れが反転することはないと想定しています。

つまり、今後の世界では、もはや、国家は主権を単独で行使できる絶対的な存在では

なく、国家はグローバル化する世界の中でのプレーヤの一つであると考えることが必要となります。つまり、企業・市場、個人と並んだ、相対的プレーヤとしての国家とは、どのような存在であり、どのように変質していくべきであるかを見極める必要があります。それに応じて、企業や社会や個人の在り方も変化します。

このような急速な環境変化を踏まえて、ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20 年後を見据えて働くとは何かを考える、つまり、どう SURVIVE するかを考えるのが、ゼミのテーマです。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

★ グローバル化の進展とデジタル・テクノロジー革新による環境の変化を包括的に捉え、グローバリゼーションとはなにかについての認識を多角的に深めます。

★ 国家のパワーの低下と企業と個人のパワーの増大と社会の多様化について多角的に議論します。

＜4 年次 / 4th Year＞

★ ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20 年後を見据えて働くとは何かを考えていきます。

★ 上記を踏まえて、課題テーマについてのグループワークを行い、その結論をまとめてグループで発表します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ナシ(代わりに卒業発表を行います)※ゼミ論を希望する人は、相談してください。

(3) 評価方法 / Evaluation

＜3 年次 / 3rd Year＞

春学期・秋学期：定期発表(40%)議論への参加・貢献度 (30%) 各期終了レポート(30%)

＜4 年次 / 4th Year＞

春学期：定期発表(40%)、議論への参加・貢献度(30%)、春学期終了レポート(30%)

秋学期：定期発表(30%)、卒業グループ発表(70%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特に指定しません。　課題図書は適宜指定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

加速するグローバル化とテクノロジー革新の中で、そのダイナミックな変化に興味を持ち、知的好奇心が旺盛で、多様性を受け入れられる学生を望みます。

5. 選考方法 / Screening

事前課題と（ZOOM による）面接とします。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

デジタル・テクノロジーの急速な変化についての感度を高めておいてください。そして、ニュースやマスコミで多用されるグローバル化とポピュリズムとは、一体何を意味しているのかについて考えてみておいてください。

7. その他 / Others

Covid19 が収束していれば、夏休みには２泊３日のゼミ合宿を行う予定です。

06 尾関 直子 教授

1. 演習のテーマ

第 2 言語習得理論です。「どうすれば英語を早く上達することができるのだろうか？」,「日本語は文法を知らなくても話すことができるのに，英語は文法を知っていても話すことができないのはなぜだろう？」。そういう質問にすべて答えてくれるのが第２言語習得理論です。言語の学習方法，言語政策，言語教育など，言語に関係のあることに興味のある学生には楽しい学問です。授業では，理論に偏らず，実生活でどのように活用すればよいかも考えます。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞毎週，教科書の担当部分について，グループもしくはペアで発表します。発表する内容は，担当部分の要約，その内容に関して調べてきたこと，担当部分に関しての自分たちの意見や考えです。また，内容に関して，ゼミでディスカッションができるトピックを提供することも必要です。発表担当以外の学生は，教科書の内容に関しての意見や考えをジャーナルに書いてくることが課題となります。ちなみに、授業はすべて英語で行われます。授業の最初に，ジャーナルを交換し，お互いのジャーナルにコメントを書き，その後，発表担当者が発表をし，全員でディスカッションをします。授業は，プレゼンテーションやディスカッションが中心となるので英語力のアップも同時に期待できます。

＜4年次＞就職活動があるので，自分のペースでゼミ論（卒論）を書きます。また，1 か月に１度くらいの割合で卒論について発表します。卒論のテーマは，「第２言語習得」に関することだけでなく，「言語」,「国際」,「コミュニケーション」、「教育」に関係していることがテーマであれば，かまいません。卒論は，日本語でも英語でも，どちらでもよいです。

（2）ゼミ論の有無　有

（3）評価方法

3 年生　ディスカッションや授業への参加 50%，プレゼンテーション 30%，
　　ジャーナル・ライティング 20%

4 年生　プレゼンテーション 30%，ゼミ論（卒論）70%

3. 使用テキスト

Gass, S. M., Behney, J., & Plonsky, L. (2020). Second language acquisition: An introductory course. Routledge.

4. 応募学生に望むこと

ゼミでは，真剣に勉強します。ただし，ゼミは，勉強する場であるだけではなく，仲間と共に人間的にも成長していく場でなくてはいけないと考えているので，ゼミ合宿にも積極的に参加したいと考える，やる気と体力がある学生は大歓迎です☆また，多様性を尊重できる学生も大歓迎です♪

5. 募集人員　10 名～15 名

6. 選考方法　アンケートと面接（留学中の学生はアンケートだけです。）面接は Zoom になるかもしれませんが，どうか宜しくお願いいたします。

7. その他

コロナが終息したなら，夏休みにはゼミ合宿をして，研究成果を発表してもらいます。楽しいゼミにしていきましょう！また，相談等ある場合は Zoom や Line で相談できます。

07 小野雅琴 専任講師

---

1. 演習のテーマ / Theme

広告の理論実証研究

広告のゼミと聞いて、皆さんはどんな活動をイメージしますか？ 「広告鑑賞」あるいは「広告制作」かもしれません。ですが、そうではなく、どんな広告の結果として、何が起こるか、を探究することです。知識のないまま、実際の広告実務を観察しても、その答えは得られません。難解な「理論」を習得し、自ら「実証」を実施して初めて、その答えが得られるのです。当ゼミは、世界最先端の広告理論を身に着けた上で、統計解析技法を駆使して、理論の実証を行うことのできる人財を育成することを目指します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

一年目は、インプット期間です。理論を身に着けるということがどういうことかをオススメ論文の輪読によって体得します。他方、実証を行えるようになるためにフリーソフト R を用いて実習を行います。

＜4 年次 / 4th Year＞

二年目は、アウトプット期間です。各自が気になる論文を探してきて、その論文の中で提唱されている最新理論を、実証ツールを使って評価します。具体的には、例えば、欧米の理論が日本ないしアジアの広告実務に適用可能かを論じるゼミ論を執筆します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

有り。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席状況、ゼミにおけるパフォーマンス（参加姿勢、課題提出、口頭発表、グループワークなど)、および卒論（4 年次のみ）によって成績評価を行います。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

全員に購入していただくテキストはありません。参考書はその都度紹介します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

当ゼミは、今回入室する皆さんが第１期生です。そんな皆さんには、(1) 広告研究のゼミを新たに立ち上げようとする開拓者精神と、(2) 2 年間にわたってそれを成し遂げるための強い持続力、そして、何よりも、(3) 同じ目標に向かって歩む同期生と協働しようとする高い協調性を望みます。

5. 選考方法 / Screening

Zoom を用いたオンライン面接によって選考します。面接に先立って、志望理由や自己 PR に関するエントリーシートを提出していただきます。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

特にありません。入室前よりむしろ入室後の学習姿勢に期待します。

7. その他 / Others

08 岸 磨貴子 准教授

1. 演習のテーマ

教育工学（Educational Technology）/学習環境デザイン

岸ゼミでは、**学びのデザイン×ダイバーシティ×メディア** をキーワードとして、実践と研究を同時に行います。教育工学は、「問題解決の学」です。ゼミ生は興味・関心、問題意識に基づいてプロジェクト（活動）を立ち上げ、実際に社会に働きかけながら得た知見を論文や映像、ウェブ、書籍などのメディアにまとめて発信します。そのプロセスで多様なICT を道具として利用するためメディア活用やメディア表現力の力もつきます。ゼミ生の研究フィールドは多様で、学校教育、NPO/NGO（難民支援など）、地域連携（屋久島、秋田等）、海外（特に途上国）などがあります。詳細は、ゼミのウェブページをご覧ください。

場のデザイン×ICT で 誰もが輝ける世界に：https://www.meiji.net/movie/movie003_makiko-kishi
岸ゼミウェブページ： http://m-kishi.com/seminar

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞ ３年ゼミ生は自分の興味関心を広げ、深めるために様々な活動に参加したり、始めたりします。春学期の活動を通して詳しく知りたいこと、挑戦したいこと出会い、秋学期ではそれに関する文献の発表をします。サブゼミ＠オンラインでは、学びのデザインを理解するため心理学と教育工学に関する文献を輪読します。

＜4 年次 / 4th Year＞ 春学期では、学習環境デザインについての理論に関して文献輪読を通して深めます。秋学期は、自分の研究テーマをもとに研究成果を定期的に発表し、卒業研究発表会に向けて論文執筆またはメディア制作に取り組みます。

※詳細は岸ゼミのウェブ→abt 岸ゼミ→「ゼミのゴール」をご確認ください。
※卒業制作については、岸ゼミのウェブ→「プロジェクト」「卒業研究」から ご覧いただけます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ゼミ生は、卒業制作として、論文執筆またはメディア制作（ミュージカル、絵本、 映像、ウェブ、冊子など制作、ワークショップの実施、教材の開発）に「個人」または「グループ」取り組みます。(詳細は岸ゼミウェブページにて確認できます)

(3) 評価方法 / Evaluation

※詳細は岸ゼミのウェブ→abt 岸ゼミ→「ゼミのゴール」に、目的、方法、評価を明記

3. 使用テキスト / Textbook(s)

適宜、指示します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

・２年間ゼミ活動を最後まで取り組める人
・プレイフルに、協働的に、自分のやりたいことに一生懸命に取り組める人を歓迎します。

5. 選考方法 / Screening

志望動機書または面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

ゼミのウェブを事前に確認し、ゼミの内容や方法をしっかり確認してください。

7. その他 / Others

ゼミ入室後でも構いませんので、インターネットと社会 A/B、メディアリテラシー A、教職課程の学生は教育の方法と技術を受講してください。

09 金 ゼンマ 准教授

1. 演習のテーマ

グローバリゼーションとアジア太平洋地域の政治経済

アジア太平洋地域における政治経済を勉強するゼミです。本ゼミでは、二国間自由貿易協定(FTA)、ASEAN＋3、環太平洋経済連携協定(TPP)など重層的に進展するアジア太平洋の地域統合への動向を踏まえ、リージョナリズムの現状と今後の課題について分析する視点を養います。さらにそうした視点を踏まえて、東アジアを含む広義のアジア太平洋地域における国際関係の変化やグローバル化への各国の政策的対応の相違と共通性について、論点の理解を深めることを目的とします。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞

毎回、担当者 2 名が指定文献の担当内容についてレジュメを作成し、発表します。コメンテータ 2 名は、文献に関連したコメントやディスカッションのための質問を提供します。報告レジュメは、報告の三日前までにはゼミのメーリングリストに送り、報告当日にディスカッションを全員参加で行えるようにします。報告とコメント、ディスカッションの使用言語は、英語でも日本語でもかまいません。

＜4 年次＞

3 年次で得た知識を踏まえ、各自の興味のあるテーマについて調査・研究を行い、卒業論文を作成します。二か月に一度の割合で卒論について発表し、ゼミでのフィードバックを通じて論文を修正・発展させていきます。卒論は、英語でも日本語でもかまいません。

(2) ゼミ論の有無

研究発表とゼミでの議論を踏まえて、ゼミ論を作成し提出していただきます。

(3) 評価方法

＜３年次＞　平常点（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）
＜４年次＞　平常点（20%）、プレゼンテーション（20%）、論文（60%）

3. 使用テキスト

適宜指示します（英語と日本語の文献）。

4. 応募学生に望むこと

いま、アジア太平洋地域の政治経済において何が問題となっているのか、知的好奇心を持って積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 選考方法

小論文(研究テーマ・応募理由)と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

アジア太平洋地域の政治経済情勢に興味を持ち、日々の国際ニュースに接しておくことを期待します。

7. その他

本ゼミでは、実践的な視点を養うための、フィールドワークや合宿を行う予定です。韓国の高麗大学・延世大学・西江大学との合同ゼミがあるなどイベントが豊富で、頑張れば頑張るほど得るものが大きくなるゼミです。

10 クエク, マーリJ.N.H. QUEK Mary 特任准教授 Associate Prof.

1. 演習のテーマ/ Theme

"Project based learning in the hospitality and travel industries."

Japan tourism development has experienced an exponential growth in the past years. This course is designed to provide students with an insight into and understanding of the nature of hospitality and travel businesses. Students will be working in small task groups to fulfil a remit in consultation with a hospitality or travel organization, and design and conduct appropriate research to complete their task. The course enables students to apply knowledge acquired and develop further the skills of research, team working, time management, communication and decision-making.

2. 授業内容/ About the course

(1) 授業の進め方/ How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞:

This course will be conducted in English language. The weekly activities enable students to gain first-hand experience in data collection and analysis, and enhance their critical thinking and writing skills. Depending on how the COVID-19 situation evolves, students will have the opportunities to refine their interactive skills by meeting people from all walks of life.

＜4 年次 / 4th Year＞:

Students have the option of extending their project from the previous year, or start a new one. The extended project must relate to academic debates that are relevant to the topic under discussion.

(2) ゼミ論の有無/ Thesis: Not required.

(3) 評価方法/ Evaluation

＜3 年次 / 3rd Year＞

Attendance and participation 50%; Report 50%

＜4 年次 / 4th Year＞

Attendance and participation 30%; Report 70%

3. 使用テキスト/ Textbook(s)

Reading materials will be distributed weekly.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

1) The seminar sessions will be in English. Students should have adequate English language skills to do well in this course.
2) Applicants need to be interested in the hospitality and travel businesses.
3) Students are expected to participate actively in all activities and embrace teamwork.
4) Students are required to attend seminar sessions regularly and be punctual for class.
5) Any student who is absent twice or more times, except for absences that fall under documented emergencies, will receive a failed grade.

5. 選考方法 / Screening

- A short essay and an interview.
- Students will submit a short essay in English describing their interest in this seminar via email to the tutor, two days before the interview.

Essay specifics: Arial font; Font size 12, 1.5 spacing, 200 words (+/-10%).

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他/ Others

- Seminar events and additional information will be announced in class
- This syllabus/schedule may change depending on participant numbers and the project commissioned by industry practitioner.
- The seminar may offer excursions to experience fieldwork.
- Students will incur small out-of-pocket expenses.

11 琴 仙姫 Soni Kum 特任講師 Assistant Prof.

---

1. 演習のテーマ/ Theme

Contemporary Art / Film and New Media / Curatorial Practices / Performance

This seminar is designed for students who are interested in contemporary art, film and new media, curatorial practices, performing arts, music, dance, and literature. The participants will expand their understanding of contemporary art through both practical and theoretical study processes. These cultural spheres have been in close dialogue with recent global phenomena, such as migration, global inequality, economic disparity, the environmental crisis, the global pandemic, post-colonialism, war, religious conflicts, and racism. Along with learning various art theories and practices from around the globe, the students are encouraged to produce their own artworks or research-based projects.

This seminar encourages students to see cultures and "the world" in a more expansive and dynamic manner. It provides students with an introductory ground to think beyond existing limited cultural conditions and perspectives. It will enable them to form their own research methods and themes through the approach of transculturality. Students interested in philosophy, sociology, psychoanalysis, and critical studies are also welcome. We are going to perform an in-depth examination of society through reading critical theories. Various texts from humanities and social science, as well as visual examples of artworks, will be presented in each class.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

At the beginning of this seminar, each student will be asked to choose their area of study or the research theme they would like to explore in-depth. They can choose any topic related to art or sociology.

Part of the course will comprise student presentations. Participants will give presentations on their research or artworks, followed by a Q&A session and an interactive discussion.

The students are encouraged to work both individually and in collaboration.

At the end of each year, we will facilitate a collaborative exhibition on campus.

The students will be divided into a curator/producer group and an artist group.

The curator/producer group will manage the event, while the artist group will focus on creating, exhibiting, and performing at the event. The artwork can take the form of either visual artworks to be exhibited in the exhibition space or music, dance, or theater performances in a theatrical setting.

By producing an actual art event on campus, the students will learn valuable event management and production skills through a collaborative effort.

＜4 年次 / 4th Year＞

Same as above.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes, there will be a thesis. It can take a form of a thesis paper, artwork, performance or presentation.

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞

3rd Year: Class participation (30%), Presentation in class (30%), Final presentation (40%)

＜４年次 / 4th Year＞

4th Year: Class participation (30%), Presentation in class (30%), Final presentation (40%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

To be announced during the seminar.

4. 応募学生に望むこと / What is expected of students who apply

The students are encouraged to be proactive and work towards what they want to pursue or explore in this course.

5. 選考方法 / Screening

Please send a short essay via email, introducing yourself and explaining why you are interested in participating in this seminar, at least 3 days in advance of the scheduled interview date.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the seminar

Participants are encouraged to have taken a Media Arts course, but it is not mandatory.

7. その他 / Others

We will take periodical field trips to art spaces in or around Tokyo, and we may have some guest speakers on related topics.

The class will be mainly conducted in English, but supplementary Japanese language material will be provided.
If you have an interest in the arts, please do not hesitate to join despite the language barrier. The instructor will assist the students as much as possible.

12 小谷瑛輔 Kotani, Eisuke 准教授

1. 演習のテーマ / Theme

日本近現代の文学/文化

文学は、読者自身が関心を持って考えていることを映し出す鏡でもあり、それについて学び考え、語り合うことを助けてくれる、豊かな知の資源でもあります。だから文学研究というのはもしかすると、文学作品を通じて何をどのように考えることもできる、最も自由な学問分野と言えるかもしれません。そもそも何を「文学」作品と見なすのか（小説や詩のこと？批評や演劇や映画は？マンガ、アニメ、ゲームも？）も、人によって大きく違います。私自身、そうした自由さに惹かれて文学研究の道に進みました。

このゼミでは、文学やそれと関わる文化事象を題材として、日本の近現代に産み出されてきたこの知的資源のポテンシャルを最大限に引き出すための技術や方法論を身に付けていきます。相互の関心や知識から学び合い、最終的にはそれぞれが自分なりの研究テーマを設定してゼミ論（卒論）の形で成果を出していくことを目指します。

2. 授業内容 / Activities

(1) 授業の進め方 / Proceeding

＜3 年次 / 3rd Year＞

このゼミでは、「研究」（新たな知見を生み出すこと）を重視した活動を行います。それぞれが関心のある対象を選んで研究結果を発表し、検討対象テクストを読んできた参加者全員とディスカッションする、という形式が中心となります。1 年間を通して、文学・文化に関する見識を培っていくとともに、文章の読解・分析力、資料調査力、レジュメやレポートで自分の考えを論理的にまとめる文章作成能力、プレゼンテーションの技術、ディスカッションのためのコミュニケーション能力といった汎用スキルも身に着けていきます。また、ゼミ生のアイデア次第で、文学との多面的な関わり方を知るための多様なゼミ活動を取り入れるのもよいでしょう。

＜4 年次 / 4th Year＞

各自でゼミ論のテーマを決め、そのテーマについての研究を発表して、ディスカッションを行います。そこで得られた視点や知見を活かして改めて研究を進める、という過程を通して、それぞれのゼミ論を完成させていきます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis　有り。ただしゼミ生の学修の希望や状況によって応相談。

(3) 評価方法

＜３年次 / 3rd Year＞平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）

＜４年次 / 4th Year＞平常点（30%）、発表（20%）、論文（50%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)　基本的には、回ごとに発表者が選んだ作品を扱います。

4. 応募学生に望むこと / Requirements

ゼミが有意義なものとなるかどうかは、ゼミ生自身の積極的な参加次第です。自分が何をしたいかを考えて、活発にコミットして貰えればと思います。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ Required activity that will have been done the start of the seminar

特に掘り下げて研究してみたいことを、色々な本を読みながら考えておきましょう。

7. その他 / Others

ゼミ行事は履修者の希望に応じて決めます。

13 小林 明 准教授

1. 演習のテーマ

国際教育交流の理解と実践

このゼミでは「国際教育交流は国際平和実現の礎」と位置付けて、国際教育の概念を理解した上で、学校教育における海外留学や交流プログラムなど国際教育交流の実態を調査し、国際教育交流の果たす役割や効果を学ぶとともに国家・地域間および文化間の平和的な共存を推進する理想的な国際教育プログラムを模索します。学内の国際化にも積極的に参加します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞

ユネスコの「国際教育の勧告」について学び、日本の取り組みを調べることで国際教育の理念と実際について理解を深めます。特に国内の中高等教育機関における国際教育交流の具体的な取り組み（留学プログラムや活動とその効果）について調査します。

＜4 年次＞

国内外の大学の国際教育交流プログラムについて調査し、理想的な取り組みやその効果について分析します。その結果を踏まえて中高等教育における国際教育交流のあり方を構想します。

(2) ゼミ論の有無

無し（ただし E-book 等、何らかの形で成果を発表する。）

(3) 評価方法

＜３年次＞　平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。
＜４年次＞　平常点（30%）、発表（30%）、レポート（40%）で行う。

3. 使用テキスト

『大学の国際化と日本人学生の国際志向性』
横田雅弘・小林明編　発行：学文社
『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト』
横田雅弘・太田浩・新見有紀子編　発行：学文社

4. 応募学生に望むこと

国際教育交流および異文化感性の向上に興味を持ち、積極的にゼミに参加できること。
無断欠席、遅刻は厳禁で、海外研修費（約 15 万）を自力で捻出する気力がある者。

5. 選考方法

筆記試験と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「海外留学入門 A」「国際教育交流論 A」を履修しておくことが望ましい。

7. その他

夏休み又は春休みに 3、4 年生合同で 3 泊 4 日程度のゼミ合宿研修を行う。場所は研修内容により海外で実施することもある。

14 小森 和子 教授

1. 演習のテーマ / Theme

【外国語としての日本語／日本語教育】

日本語では「薬を飲む」と言うのに、中国語では「吃（食べる）**药**」と言い、英語では「take（とる）medicine」と言います。同じ＜薬を体内に入れる＞という現象なのに、言語によって動詞が異なっています。本演習では、このような日本語特有の表現を取り上げ，他の言語話者から見た日本語の不思議な点や難しさを探っていきます。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

春学期は、日本語に特有の表現について、なぜ日本語ではそのように言うのか、考えていきます。秋学期は、春学期で学んだことを基に、グループに分かれて，テーマを設定し，実際に調査を行います。

＜4 年次 / 4th Year＞

春学期は，卒業研究を組み立てるための準備として，先輩の卒業論文やその他の学術論文を読んでいきます。学期末には研究計画書を一緒に作成します。秋学期は研究計画書を基に，調査を行い，論文を執筆します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あります。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席と議論への参加（20%）、発表（30%）、レポート（3 年次）・論文（4 年次）（50%）によって，総合的に評価をします。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

受講生のみなさんの希望を聞いて，決めていきます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

日本語学習者や日本語が母語でない人と関わることが好きな人，大歓迎です。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。面接の際には，応募理由だけでなく，これまでの言語系科目の履修状況，日本語教育学に関する基礎知識の有無などを確認します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

「日本語教育学（語彙）」を履修しておいてください。

7. その他 / Others

当たり前に使っている日本語の不思議を探してみませんか。

15 酒井 信 准教授

1. 演習のテーマ

メディア文化論、ジャーナリズム研究、情報社会論

本演習では広義の Media Studies に関する必読書を精読し、自己の切り口から分析成果の発表を行うことで、メディア文化に関する知見を身に付けることを目指します。またジャーナリズム研究の実践的な学びの機会として、既存の雑誌や新聞、書籍、Web 上のメディアなどを参照しながら、横断的な情報収集・メディア分析を行います。その上で、国内外の社会事象や文化事象に関する分析を行い、文章にまとめ、公表します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞

① 広義の Media Studies に関する文献購読。言説分析に関するプレゼンテーション。
② Web 上のメディアの分析。Web 上のメディア環境が持つ諸問題と可能性の双方に関する情報メディア研究。
③ 海外メディアが配信するニュースと報道の文脈の比較分析。比較メディア文化論。
④ 紙媒体のメディア（週刊誌・月刊誌の比較分析）の研究。テーマを定めたメディア史研究。
⑤ ジャーナリズム研究・文芸メディア研究の実践としての文章の執筆、創作。

＜4年次＞

３年時の１～５の何れかの研究の方法論を選び、テーマを定めた上でゼミ論（卒業論文）を執筆する。定期的にテーマの設定や研究方法、論文執筆について、発表・講評・相談の機会を設ける。広義の Media Studies に関する研究・実践であれば、テーマ選択の自由度は高い。

(2) ゼミ論の有無 有

(3) 評価方法

＜3年次＞授業参加・貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。
＜4年次＞授業参加・貢献（20%）、発表（30%）、論文（50%）で行う。

3. 使用テキスト

『メディア・リテラシーを高めるための文章演習』酒井信（2019 年）発行：左右社

4. 応募学生に望むこと

広義のメディア研究に興味を持ち、積極的に授業に参加できる学生を望みます。無断欠席，遅刻は厳禁です。

5. 選考方法

志望理由と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。留学中の場合は別途案内します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

下の教員の個人ページ記載の著作や原稿を、できるだけ読んでおいて下さい。
https://makotsky.blogspot.com/

7. その他

「ジャーナリズム研究概論」「日本のジャーナリズム」を卒業までに履修してください。各課題を通して、手を使って情報を漁り、足を使って様々な人や場と関わり、頭を使ってその成果を論理的な文章としてまとめ上げるトレーニングを積んで下さい。

16 佐藤 郁 専任講師

1. 演習のテーマ

インバウンドツーリズム、観光による地域活性化

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界を知ること、そして観光の本質である「地域との関わり」への理解を深めることです。本ゼミでは学生が主体となり、地域や企業と連携したPBL(Project-Based Learning)型の学びを通じて、チームワーク、企画力、交渉力、プレゼン力（「想い」を伝える力）の習得を目指します。同時に、フィールドワークやグループワークを通じて、様々な立場や範囲から物事を多角的にとらえる視点を養います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携し、観光の地域での役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、４～５名のグループ単位でフィールドワークを実施し、中野区の観光資源を発掘して、その魅力を観光情報サイトで発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。

＜4年次＞

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

(2) ゼミ論の有無

有

(3) 評価方法

３年次：平常点(40%)、グループワーク・発表(60%)によって総合的に評価する。
４年次：平常点(40%)、論文・発表(60%)によって総合的に評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。（３年次は特に）グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を希望します。共創型ディスカッションを通じて、ゼロから新たなアイディアや価値をつくるプロセス、未来志向のビジネスや地域活性化に興味のある方を歓迎します。

また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。その他、希望により授業時間外に複数の任意参加のプロジェクトを設定することがあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

5. 選考方法

小論文、志望動機書、自己紹介書，自己PR動画、の4点による選考を行う。2年次春学期までの成績も参考にする。場合によって追加で面接を実施することがある。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントＡＢ」を履修しておくことが望ましい。観光や地域活性化に関わるニュースメディアや書籍に興味をもち、常にアンテナを張っておいてください。

7. その他

連携機関の都合や受講生の要望・理解度により、内容を変更する場合があります。

17 鈴木 賢志 教授

1. 演習のテーマ

スウェーデンに発信し、スウェーデンから学ぶ

本演習は、スウェーデンに焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、①日本に興味を持つスウェーデンの人々とのコミュニケーションを通じて、彼らが日本をどのように認識しており、どのような情報の発信が望まれているのかを理解し体感する。さらに②スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのか、その可能性や限界について考察する。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞

春学期は、スウェーデンについての基本的な知識を吸収しつつ、スウェーデンの人々との交流や大使館でのイベントなどの様々な機会において、スウェーデンの人々が日本や日本人をどのように認識しているのか、どのような情報が求められているのかを、実践を通して学んでいく。秋学期は、春学期の経験を踏まえて、スウェーデンと日本の比較についての学びをさらに深めていく。

＜4年次＞

春学期は、スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのかについて議論し、それをどのような形で卒業発表に結実させるかについて討議し、計画を策定する。秋学期は、策定した計画に基づき、スウェーデン大使館において、主にスウェーデンに興味を持っている日本人を対象として行われるスウェーデン社会研究所のセミナーとして卒業発表を行うべく、その準備を行う。

なお授業では、スウェーデンと日本の現状や社会システムについての解説や、スウェーデンの人々とのコミュニケーションや研究に役立つよう、初歩的なスウェーデン語の講義を織り交ぜていく予定である。

(2) ゼミ論の有無

上記のゼミ活動を通じて得た知識をもとに論文執筆を希望する者については指導を惜しまないが、執筆を必修とはしない。

(3) 評価方法

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。

4. 応募学生に望むこと

ゼミの活動は、スウェーデン大使館のイベント参加や現地での研修（参加は任意）など様々な広がりをもって行うので、座学に限らず、何事にも積極的に取り組む方の参加を望む。

5. 選考方法

小論文（応募理由）の評価を中心に、２年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。場合によっては面接を実施する。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

鈴木の担当科目を履修している方が望ましい。

7. その他

18 瀬川 裕司 教授

1. 演習のテーマ

高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞ 毎回の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、テーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

＜4 年次＞ 各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。毎週の授業では、ひとりもしくはふたりが自身のテーマに関連する批評文・レポートを提示し、口頭発表をおこなったのち、全員でその内容について意見を交換する。必要な場合には、授業時間中に関連作品をＤＶＤ等で鑑賞する。最終的に、そういった発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

(2) ゼミ論の有無

参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合は、レポート提出、口頭発表等で代用できる。

(3) 評価方法

＜3年次＞ 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

＜4年次＞ 毎回授業時の発表(65%)、学期末のレポートもしくはゼミ論(35%)で評価する。

3. 使用テキスト 授業時に指示する。

4. 応募学生に望むこと

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、文章を書くのが好きで、積極的に意見を述べられる学生、もしくはそのようになりたいと考える学生が望ましい。

5. 選考方法 必要な場合には、アンケートなどを実施する場合もある。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

蓮實重彦（はすみ・しげひこ）氏の映画関係の著作を演習開始前に２冊程度読んでおくことが望ましい。

7. その他

19 田中 絵麻 専任講師

1. 演習のテーマ / Theme コンテンツ産業論・ICT 政策論

日本が抱える様々な課題に取り組んでいくに当たり、情報通信技術（Information and Communications Technology: ICT）の活用が期待されています。ただし、ICT の利活用においては、技術開発のみならず、企業の活動、社会的受容やその発展をささえる制度が不可欠です。本演習では、AI 技術の導入も視野に入れつつ、ICT 技術とプラットフォームがどのように社会を変化させているのかを、主にメディア産業やコンテンツ産業を対象として、日本と諸外国の比較の視点からアプローチし、公益に資する ICT の活用とはなにか、また、ICT 産業にかかる政策のあり方を考えることをテーマとしています。一次資料に基づく制度比較のリサーチ手法やデータ分析手法の習得を目指します。2022 年度のテーマとして、デジタル・ウェルビーイングを検討していますが、各人の関心テーマを重視します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

・テキストの輪読・報告とディスカッション。各人の関心テーマを設定・調査・報告。
・進め方やテキスト、各回の予定はシラバスを参照してください。
・個別テーマでの調査・分析を行い、ゼミ論（6000 字-1 万字）を作成・発表。
　※情報通信学会・次世代ネット政策研究会・大学合同ゼミでの発表となる場合もあります。

＜4 年次 / 4th Year＞

・主体的なテーマ設定のもと応用的なテキストの輪読と卒論(2 万字程度)指導を行います。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

・有

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次＞ゼミへの参加度（30%）、グループワーク（35%）、個別報告（35%）
＜４年次＞ゼミへの参加度（30%）、卒論（70%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

『エマニュエル・トッドの思考地図』、『DX の教養 デジタル時代に求められる実践的知識』、『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために　その思想、実践、技術』等からゼミ生の関心に応じて選定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

・好奇心と行動力を持ちつつ、社会に貢献する意欲のあること。
・ICT、メディア、コンテンツ、ICT 領域に関心があること。

5. 選考方法 / Screening

・ゼミ志望動機にかかるレポート（メールにて提出）と面接（ZOOM）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

・演習担当教員の学部科目（メディアリテラシー、テクノロジーと日本）に関心があるか、履修していること。
・コンテンツ産業論（3 年次から登録可能）に関心がある場合には入室後の履修も推奨。

7. その他 / Others

・リサーチ、アウトプット、フィールドを重視しています。これまでのゼミ生は『国際日本学学生論文集』への投稿や合同ゼミの発表、英語でのプレゼンなどにチャレンジしています。

20 田中 牧郎 教授

1. 演習のテーマ

日本語の歴史と現在

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞

現在の日本語、日本語の歴史について研究するための方法を、実践を通して学びます。次のような活動を、4 年生や大学院生のサポートも得ながら行います。

現在の日本語：小説言語の分析、コーパスの作成と活用、フィールドワークによる言葉の収集、政治家やメディアの言葉の分析など

日本語の歴史：古典籍の読解と解釈、古典中国語や西洋言語からの翻訳分析、各時代の新語・流行語の抽出、西洋概念の取り入れ方の調査など

＜4 年次＞

3 年生と共同で行う実践活動に加えて、各自の研究テーマを定め卒業論文を執筆します。卒業論文を執筆しない人は、それに代わる活動の柱を決めてもらいます。

最近の卒業論文テーマ例：文学作品における感情を表すオノマトペ、近代翻訳小説における無情物主語の翻訳、ソーシャルゲームのキャラクター言語、感情を表す名詞のメタファー表現、古今和歌集から見る和歌翻訳、日英訳文から見る両言語の認知の違い、外国人材受け入れに関する社説を対象とした批判的談話研究

(2) ゼミ論の有無

卒論執筆を推奨しますが、卒論を書かない 4 年生には活動の柱を決めてもらいます。

(3) 評価方法

＜３年次＞　平常点（60%）、レポート（40%）で行う。
＜４年次＞　平常点（60%）、論文（40%）で行う。

3. 使用テキスト

使用するテキストや資料は、活動ごとに指示します。

4. 応募学生に望むこと

言葉好きであること。分析や議論を楽しむこと。読むことや書くことで成長できること。

5. 選考方法

面接によります。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

外国語と日本語を比べる、古典に親しむ、コミュニケーションの方略を追求するなど、ふだんの言語活動の中で、日本語を分析する動機付けを高めてください。

7. その他

少人数のゼミですので、4 年生や大学院生との共同活動を行うことがよくあります。また、夏休みには、文学部の国語学ゼミとの共同の活動もあります。合宿も行う予定です。

21 張 競 教授

1. 演習のテーマ

比較文学比較文化特別研究

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞

この演習は、将来ゼミ論や卒業発表の作成を視野に入れ、比較文学比較文化に関する問題について研究を行う授業である。文学や文化の受容および変容、文化衝突の問題が主たるテーマだが、ゼミは三つの段階に分けて進める予定である。

まず、前述のテーマと関連する資料を講読し、資料の読解や分析、批評およびグループ・ディスカッションを通して、比較文学比較文化研究とは何かを理解する。

次に、ゼミで講読した資料にもとづいて、テーマを選び、ゼミ生が関連することについて調査し、その結果をゼミで発表する。

右の作業を通して、問題の見つけ方、検証および資料調査の仕方を身につける。最後に、ゼミ生が自ら課題を見つけ、資料調査などを行った上、その結果をゼミで発表する。それぞれの報告について、全員でディスカッションを行い、そうした議論を踏まえて次の課題を見つける。そうした一連の作業を通して、比較文学比較文化の基礎的な研究に必要な方法を習得する。

スケジュールは基本的にゼミ生と議論の上で決めるが、最初の数回はテーマの設定、文献調査、資料収集、現場調査、データの処理、口頭発表、論文執筆の時期や基礎的な作業の方法および研究の進め方について勉強する。

＜4年次＞

この演習は３年次の継続で、ゼミ参加者は自分の設定したテーマについて研究を行う授業である。基本的な進め方は 3 年次と変わらない。ゼミ論を提出する履修生には春学期に中間発表をし、秋学期のはじめにゼミ論か卒業発表の草稿を提出するのを目指しほしい。

(2) ゼミ論の有無

ゼミ論の提出が望ましいが、必須条件ではない。

(3) 評価方法

＜３年次＞平常点５０％、発表５０％

＜４年次＞平常点５０％、発表および論文５０％

3. 使用テキスト

必要なときに随時に指示。

4. 応募学生に望むこと

積極的に授業参加し、３年と４年の合同演習にも参加すること。

5. 選考方法

筆記試験と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと。

特になし。

7. その他

合宿等はゼミ生と相談の上決まる。

22 長尾 進 教授

1. 演習のテーマ

スポーツと現代社会

2020夏季オリンピック・パラリンピック東京大会は2021年に延期され、国民世論が2分するなかで開催されました。なぜこの時期にあえて開催されたのか。その根本原因は、1980年代以降のオリンピックの過度なビジネス化にあります。コロナ禍にあって日本や東京がこの五輪とどう向き合ったのか。レガシーを遺せたのか。五輪の今後のあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるビデオ判定方式の導入、eスポーツ、スポーツとジェンダーの関係、スポーツ選手の政治的意思表明など、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツとの関係性について議論を深めることも、ゼミの特徴です。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

学期前半は、長尾からその時々のスポーツをめぐるトピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらい、討議をします。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4 年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

(2) ゼミ論の有無

国際日本学部は留学する人も多いので、いわゆる卒論というスタイルはとりません。各学期末において、期末レポートを提出してもらいます。その時々のテーマによる学期完結型のレポートでもかまいませんし、4学期継続したテーマでもいいです。

(3) 評価方法

平常点（討議への関心度、意欲）40%、プレゼンテーション（資料収集・取材意欲を含む）30%、期末レポート30%

3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、ＵＲＬなどを、そのつど紹介します。

4. 応募学生に望むこと

プレゼンにしても、レポートにしても、「現場」での取材や一次資料が大きな説得力をもちます。スポーツ場面への実際の取材（アンケート、インタヴューほか）など、アクティブな姿勢を望みます。

5. 選考方法

募集定員をめどに，選考します。関心のあるスポーツ関連のテーマと、そのテーマを選んだ理由、および研究計画を記述する欄を含む、エントリーシートを書いてもらいます。基本的には、そのエントリーシートと面接（Zoom）をもとに選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

オリンピック・パラリンピックについては、インターネット等を通じて記事や動画に接することができます。これらに日ごろから関心をもって接していてください。

7. その他

冬季または春季休暇中にゼミ旅行合宿（１泊２日程度）を行います。研修先は皆さんと話し合って選定します

23 萩原 健 Ken Hagiwara 教授 Prof.

【注意 **Notice**】基本的に日本語で行いますが、英語の使用も歓迎します。Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome.

1. 演習のテーマ / Theme

"Performances" in Daily Life and Art Scenes

"I am sure I gave a good performance during the interview". - Haven't you heard such expression? But what is a "performance"? Doesn't it depend on audiences, situations, countries or cultural contexts, whether a performance is good or bad? On the other hand, "performance" can be a genre of art. After watching the performance, writers report saying for example: "This performance was so bad it can be ignored."

"Performances" in daily life and art scenes – The one in daily life can serve as a reference when thinking about the one in art scenes and vice versa. This is the core concept of this seminar. Each student is expected to research a theme related to the term "performance."

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

Each student is required to create a statement based on her/his own interest and then write a thesis. The core activities in each session are reporting about working processes and exchanging opinions among the students.

＜3 年次 / 3rd Year＞

[Spring semester] After some introductory activities in the first sessions, each member introduces a book or an article that interests her/him. Together with this book or article, 10 sources should be listed with short descriptions about all these sources. Then the students select quotes from the 10 sources (They should be used in the thesis) and write the statement (This will be the conclusion of the thesis). The source list with the short descriptions, the quotes and the statement will be the term paper (A) which has to be submitted at the end of the semester.

[Fall semester] The members work on the structure of the thesis based on the term paper (A). A table of contents should be written including descriptions on the content of each chapter. After finishing the table of contents, each student starts writing the thesis. In the sessions, each student introduces a part of her/his thesis. Its content and next working steps will be discussed in class. The completed thesis has to be submitted at the end of the semester.

＜4 年次 / 4th Year＞

Each student revises the submitted thesis by using 10 more sources, or writes a completely new thesis by using 20 sources. The working process is same as that of the third year.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Required (3rd year: no fewer than 10,000 letters in Japanese or 5,000 words in English; 4th year: no fewer than 20,000 letters in Japanese or 10,000 words in English)

(3) 評価方法 / Evaluation

<3rd Year> Contributions made during each session (30%), presentations (30%), thesis (40%)

<4th Year> Spring semester: same as during the 3rd year; Fall semester: Contributions during each session (20%), presentations (20%), thesis (60%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Depending on each student's research topic, references will be recommended in class.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Active participation during class and doing homework are basic requirements. Being absent or being late for class without any prior notification will have an effect on students' grades.

5. 選考方法 / Screening

Submitting a short report (approx. 1000 letters in Japanese or 500 words in English) and taking an interview. The report must be sent by email to hagi@meiji.ac.jp until two days before the day of the interview. The topic for the short report is: The relation between (a) the term "performance", (b) your current interests and (c) your future vision after graduation.【注意 **Notice**】作文を送る際のメールの書かれ方も選考のための材料です。Please note that the style of your email will also be taken into consideration when submitting your report.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

Please read at least three books related to the topic "performance". Every time you finish one book, please report about it (author, title, year of publication, publisher, content and your own opinion) by email (hagi@meiji.ac.jp).

7. その他 / Others

Depending on students' interests, trips will be held. Students will also occasionally watch (stage) performances.

24 廣森 友人 教授

1. 演習のテーマ

言語学習の心理学（Language Learning Psychology）：外国語の学習を科学する

外国語学習の成功や失敗に影響を与える学習者要因（動機づけ，学習方法，学習スタイルなど）について研究します。自らの学習経験を振り返りながら，より効果的な外国語学習や外国語指導の在り方について，具体的な考えを持ち実践できるようになることを目標とします。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

4 年次のゼミ論（卒論）執筆を見据えて，演習を進める上での基礎となる 3 つの力（①英語力，②研究力，③プレゼン力）を強化します。「①英語力」は英語文献の読解や英語でのプレゼンを通じて，1-2 年次に身につけた英語の基礎力をさらに強化します。「②研究力」は興味・関心のあるトピックを研究課題として具体化し，調査計画の立案・実行・評価といったプロセスをグループ単位で経験することにより，研究の基礎力を身につけます。「③プレゼン力」は毎授業に行う 3 分プレゼン，事前に分担した文献内容のプレゼン，各種コンテストへの参加（オプション）などにより，伝えたいことを簡潔に分かりやすく表現できる能力を身につけます。

＜4年次＞

3 年次に学んだことを踏まえ，各自が個人単位で興味・関心のあるトピックについてゼミ論（卒論）を執筆します。授業では，定期的に各自の進捗状況を報告しあい，他のゼミ生や教員，院生からのフィードバックを受けます。

（2）ゼミ論の有無

有り

（3）評価方法

出席・議論への参加状況（25%），発表（25%），レポート（3 年次）or ゼミ論（4 年次）（50%）

3. 使用テキスト

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

4. 応募学生に望むこと

・研究室のウェブサイト（https://hiromori-lab.com/）を事前に確認し，自分がやりたいことと関連があるかどうかを十分に見極めた上で応募してください。
・私の専門は動機づけ（やる気）です。やる気は伝染します。やる気に満ちたゼミ生を歓迎・応援します。

5. 選考方法

小論文（テーマは「このゼミを希望する理由，このゼミで勉強したいこと」）と面接。入室試験では，志望動機に基づいた面接を行います。詳細は，個別ガイダンスの際に指示します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「心理と言語 A・B」（ならびに関連科目「英語学」「応用言語学」「言語と文化」など）を履修しておいてほしい（あるいは，ゼミと同時に履修してほしい）と考えています。

7. その他

長期休業中にはゼミ合宿を行う予定です。その他，学生の自主性と教員の思いつきによって各種行事・イベント（例: BBQ, 紅葉を愛でる会, OB・OG・現役生合同交流会）を行います。

25 藤本 由香里 教授

1. 演習のテーマ

サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会

マンガ・アニメ・ゲームなどの日本のサブカルチャーはいったいどんな特性を持ち、世界の中でどのような現状にあるのか。それは今、デジタル化の中でどう変わりつつあるのか？　この演習では、「大衆」によって支えられるがゆえに、その意識や社会の変化を反映しやすいサブカルチャーを題材に、その表現のあり方と社会意識や文化との関係、そして未来を探っていきます。「文化」と「市場」両方に目を向けるところに特色があり、具体的には、日本のサブカルチャーの特性、歴史的な発展過程、海外市場をどう見るか、ジェンダーと表現などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つけ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何かが「見えてくる」ときの喜びに出会ってもらいたいと思います。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

前期はこれまで、「日本の戦後とサブカルチャー」を縦軸に、「日本のサブカルチャーの特性」と海外市場、すなわち“クールジャパン再考”を横軸にディスカッションを行ってきました。しかしここ数年、ポップカルチャーの市場はデジタル化の促進で激変しています。来年度のゼミでは、いったい今、何が起きつつあるのか、未来のポップカルチャーはどういう形に変わっていくのかを積極的に考えていきたいと思います。ディスカッションは4年生や院生も一緒に行うこともあります。また、BLと海外文化や、現実のLGBTやジェンダーの問題も、表現ともからめて積極的に扱っていきます。後期は具体的な＜仕事＞と国際性について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツをベースに発表してもらい、就活も見据えて＜仕事＞について考えます。

＜4年次＞

2023年度がサバティカルとなるため、3年のみ、1年間のゼミになります。

（2）ゼミ論の有無

いつもはありますが、2023年に4年ゼミが開催できないので、今回はありません。

（3）評価方法

3年：発表（５０％）、ディスカッションへの貢献度（４０％）、その他（10％）。

3. 使用テキスト

池田純一『デザインするテクノロジー　情報加速社会が挑発する創造性』、都留泰作『＜面白さ＞の研究　世界観エンタメはなぜブームを生むのか』、増田弘道『デジタルが変えるアニメビジネス』、上田真由子『2.5 次元クロニクル』、石田美紀『アニメと声優のメディア史』、吉光正絵ほか『ポスト＜カワイイ＞の文化社会学』、マーク・スタインバーグ『日本はなぜ＜メディアミックスする国＞なのか？』、東浩紀『動物化するポストモダン』など

4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

6　ゼミ入室までに学んでおいてほしいこと

『漫画文化論』AB は入室までに受講しておくことが望ましい。必修等でどうしても取れない場合は、入室後すみやかに履修すること。

7 その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。三年次は京都国際マンガミュージアムを含む関西方面のことが多いですが、秋田に行ったこともあり、4年では仙台・箱根・上諏訪……など多彩です。

26 眞嶋 亜有 専任講師

1. 演習のテーマ 学際的日本研究～ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる～

「国際日本」とはなにか

「グローバル人材」、「国際日本」とは一体何でしょうか。学問の玉手箱のような「国際日本学部」に入学された国日生のなかには、合格した直後から**「国際日本学部ってなに？」**と周囲から聞かれるお決まりの質問への「正解答」探しの旅が始まる方もいるかもしれません。1 年は必修に追われ、2 年はさまざまな領域の履修に追われ、気づくともう 3 年生、あっという間に就活先で**「国際日本学部で何を学びましたか？」**と聞かれる時期に入ります。自分の学びたいように履修ができる魅力的な学部でありながら、気づくと、果たして**自分の専門性とは何なのか**、これまで自分は何を学んできたのか、と**「国日不安」**とも言えるような心境を抱く方もおられるかもしれません。さらに、国際日本学部って、「国際なの？日本なの？どっち？」と自問する方、聞かれる方もおられるかもしれません。

「きのこの山」が語るもの

私は新入生には**「国際日本」は「きのこの山」**だとお伝えしています。チョコとビスケットがくっついているきのこの山が「自分はチョコなのか、ビスケットなのか、どっちなのか」と自問するとしたら皆さんはどう考えますか。そんな「きのこの山」から見ると、就活のグループ面接で、経済学部出身という同期が、まるで「明治のチョコレート」のように、「いいなあ、あの人はどこから見ても正真正銘のチョコレートだ」と映るかもしれません。また、国際教養学部出身と耳にするとあたかも「マリーのビスケット」であるかの如く、「いいなあ、あの人は誰がみても正真正銘のビスケットだ」と思うかもしれません。しかし「きのこの山」は、「チョコとビスケット」があってこそ「きのこの山」なのです。

つまり、**日本を知ることは世界を知ることであり、世界を知ることは日本を知ること**であり、その両者は決して分かつことができません。それがグローバル社会の本質であり、となれば２１世紀の時代を生きる私たちには、その**グローバル社会を生き抜くための知性と教養**が求められていると言えるのではないでしょうか。

だからこそ「ゼミで **Global Japanese Studies** を極めてみる」

そこで**学際的日本研究を専門**とする本ゼミでは、**「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」**を基本コンセプトに、**グローバル社会を生き抜くための知性と教養**としての、**「世界のなかの日本」を捉える多角的視座の構築**を、以下の三本柱を持って目指します。

① **多角的視点から見えてくる日本と世界**を、**ジャパン・オリジナルの如く、自分・オリジナルな視点から考察**する試みを持っています。そもそも**「日本研究」**とは**学際性**を持って成立するジャンルですが、主に**歴史学・社会学・文化人類学・心理学・ジェンダー**といった学問領域を**複合的に横断**することを学際的アプローチとしています。**グローバルな視座から「日本とは何か」を問う**具体的なトピックは、私たちの**日常生活の至るところ**に溢れています。近現代日本とグローバリズムの諸問題、家族や人間関係、ジェンダーやアイデンティティ、思考行動パターン、生活文化、心性、日本文化の世界発信や異文化受容のビジネスモデル、また個性や多様性をめぐる諸相など、**身近な切り口**から、比較考察を通じて多角的に分析します。比較対象としては、近現代日本にとって最も重要な他者であり続けた**米国との比較考察**が基軸としながらも、米国に限らず様々な国や文化圏との多角的比較ができるような視座の構築を目指します。個と多様性が益々重視されていく現代、また超少子高齢化を迎え**様々な挑戦**が日本に求められているなか、国籍・人種・性差を問わず互いの感性を尊重しながら、私達が**日本や世界に貢献しうる可能性**とは何か、そしてその**豊かさとは如何なるものか**を共に学び、考えていきましょう。

② **自己発信力と対話力：プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の強化**を行います。ガイダンス動画でも説明していますように、これまでゼミでは中野キャンパスホ

ール、駿河台キャンパス・グローバルホールはじめ、さまざまな会場でプレゼン機会を設けてきました。プレゼン能力とコミュニケーション能力は学問や就活に必要なスキルだけではなく、日頃の対話力をも向上することにつながります。自己発信力と対話力を磨くことで、自己理解を深め、同時に他者理解をも深めることができます。なぜなら、日本を知ることは世界を知ること、世界を知ることは日本を知ることであるように、自己理解は他者理解であり、その両者も分かつことはできないからです。

③ **国内外で活躍する多彩なゲストとの交流**：本ゼミではこれまで様々なゲストをお招きしてきました。様々な分野で活躍されるゲストから生き方やキャリアのお話を伺うことは、**生き方の多様性、キャリアの多様性**を知ることにつながるだけではなく、多角的視点から「自分とは何か」「生きるとは何か」「幸せとは何か」「豊かさとは何か」を学ぶ機会にもなります。今後どの程度企画開催可能かは状況に応じ判断していきますが、もともと本ゼミではゼミ生同士、またゼミ OG・OB との交流機会も各種イベント開催を通じて持ってきましたので（ガイダンス動画参照）、希望があればできる範囲で計画しましょう。※教員の在外がコロナ禍で延期続きでしたので今回数年ぶりのゼミ再開となります。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3 年次＞関連文献講読やフィールドトリップ、交流イベント、また各自の関心に基づく発表と議論を重ねることで、多角的な思考能力とプレゼン能力、対話力を鍛えます。

＜4 年次＞上記の学びと並行して卒業後にも活かしていける知性と教養を養います。

※2022 年度秋学期に短期在外研究が確定した場合は秋学期のみ単位履修を伴わない形でオンラインや可能な限りのイベント等を通じて交流継続する予定です。コロナ禍等で変更がありうる場合は早めに相談致します。詳細はガイダンス動画で確認下さい。

（2）ゼミ論の有無　希望者のみですが各学期研究発表と議論は全員が行います。卒論を執筆しない学生は学期末エッセイや、同等の卒業制作などを行う予定です（詳細は相談）

（3）評価方法

＜３年次＞　出席（30%）、議論含むゼミ貢献度（30%）、発表と学期末エッセイ（40%）

＜４年次＞　出席（30%就活に応じ相談）、議論含むゼミ貢献度（30%）、同上（40%）

3. 使用テキスト（あくまで参考）教員の著作・論文や HP 内にある連載コラム他、必要に応じてその都度お知らせします。

4. 応募学生に望むこと：　私たちは様々な人々との交流や対話を通じて、自分と社会と世界を知る機会を得ています。よって**知的好奇心**に溢れ、人の意見とその**多様性を尊重**したうえで、自分の意見を共有し、**主体性**をもって皆と**学び合う意志**のある学生を希望します。さらに本ゼミでは、他大学の方々や国内外で活躍するゲストをお招きするほか、各種ゼミイベントも予定しますので、**礼節と協調性をもって人と接する**ことができる学生を望みます。

5. 選考方法　作文等と成績と必要に応じて面接：入室希望者は個別ガイダンスには必ず出席して下さい。※基本的に作文等は面接日から約 1 週間前の提出を予定しています。

6. 演習入室までに学習してほしいこと　日々の生活で何気なく抱く問いや関心は**将来の重要な道標**になるので、その感性を大切に日頃から多くの良書を読んで下さい。また下記リンクにあるエッセイは必ず読んでおいてください（大学ホームページ内の教員ページ内）。
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~majima/170315ryoomoi.pdf

7. その他　教員の担当科目を履修しておくことが望ましいです。合格発表以降イベント案内や説明会等を設けますので合格者は発表された時点で教員にメールをして下さい。

27 溝辺 泰雄 教授

---

1. 演習のテーマ:「喫茶(カフェ)文化の学びを通して世界を知る」

2022-23 年度の溝辺ゼミは、「世界の喫茶(カフェ)文化」をテーマに、世界と日本の文化理解を深めることを目指します。

これまで溝辺ゼミでは、サブゼミとして「喫茶部」活動をおこなってきました。焙煎や抽出、試食会や工場見学、さらにはアフリカのコーヒー農園やワイナリーへの訪問などの体験を通して、コーヒーや紅茶、チョコレートやワイン、ラム酒などの嗜好品が世界でどのように消費され人々の生活を豊かにしてきたのかを学んできました(詳細は下記 web サイトをご覧ください)。

2022-23 年度の演習では、この「喫茶部」活動をゼミ活動の中心に据えて、世界と日本についての学びを深めることを目指します。具体的には、参加者が**(1)日本や世界各地へそれぞれ個別に赴き、そこで触れた喫茶(カフェ)文化を通して、喫茶(カフェ)文化の今のトレンドを調査**します。それに加えて、**(2)コーヒーの焙煎やカカオ豆からのチョコレート作りなどの体験活動**や、**(3)嗜好品の原料を生産と貿易をめぐる、歴史や国際関係についても学びを深めます**。さらに、**(4)喫茶(カフェ)文化に不可欠の音楽についても学びを深めていく**予定です。

毎週のゼミの時間では、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、学内/学外のイベントでのカフェ提供や、喫茶に関する冊子、旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。

これまでの「喫茶部」の活動は下記のページで紹介しています： [2019 年度] https://medium.com/club-de-caf%C3%A9 [2020/21 年度] https://note.com/afkencafe2020

2. 演習内容

(1)演習の進め方

2022 年度末の成果報告と 2023 年度末に予定している「世界の喫茶(カフェ)文化」をテーマにした本の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。具体的な活動内容は下記でも紹介していますので、入室を検討されている方はぜひお読みください：https://bit.ly/3gmPvSr

また、これまでのゼミ生の活動は次のリンクからも確認できます：

https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar/

https://africakenkyukai.myportfolio.com/

【主な活動予定(2022 年度)】

- 料理会(4 月と 12 月頃)：自分たちでテーマを決め、食と音で世界を旅します。
- 学外実習(6～7 月頃もしくは 12～1 月頃)：日本各地の喫茶店(カフェ)を求めて、個別もしくは小グループ別に、異なるルートで最終目的地を目指す旅をおこない、最後に皆で集合してそれぞれの旅の経験を共有します。その上で、地産地消をテーマに、現地で食材を集めて料理を作ります(これまでの最終目的地は、京都、熊本、石垣島、瀬戸内しまなみ海道、鹿児島、佐渡島などでした)。
- 研究活動発表会(2 月)：自分たちでコーディネートしたカフェ空間のなかで、1 年間の活動報告会をおこないます。
- 旅本の作成と出版(4 月～2 月)：「旅」を通して得た学びを 1 冊の冊子にまとめます。

(2)卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでには、アフリカ滞在の旅行記・写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでのオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける**「論文ゼミ(アフリカ研究会)」**において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。

(3)評価方法

演習活動への積極性に基づき評価します。

3. 使用テキスト

入室決定後にお伝えします。

4. 応募学生に望むこと

この演習では喫茶(カフェ)文化の探求と出版が活動の中心となります。そのため、(1)**コーヒー**(コーヒーは飲むことができなくても構いません！)**や紅茶**、その他喫茶店(カフェ)で提供される飲み物や食べ物、(2)カフェで楽しまれている飲み物や食べ物の**食材の生産地とそれをめぐる貿易や国際関係**、(3)喫茶店を形作る**食器やアート作品**、(4)世界各地の**音楽**、(5)パソコンを使っての**デザイン制作や冊子の編集/出版**、に強い関心がある方、さらに、**アフリカを含む国内外への旅に強い関心があり、世界の諸文化に対する先入観にとらわれていない方々**のご参加を歓迎します。

5. 選考方法：

書類審査と面接で選抜します。面接は対面か Zoom で実施します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

いろんなことに好奇心を持ち、気になったことは自分で調べたりやってみたりする気持ちを大切にしてながら日々の学びを楽しんでください。

28 美濃部 仁 教授

1. 演習のテーマ

哲学。（このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたがい、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分をとりまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする――それが哲学ということですが――ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられていますが、私がこれまで主に勉強してきたのは、哲学、宗教学、倫理学等ですので、専門家として助言ができる領域はそのあたりに限られています。）

2. 授業内容

（1）授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

＜3 年次＞

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読むなどして気づいたこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をする機会を設ける予定です。

＜4 年次＞

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

（2）ゼミ論の有無

有り。

（3）評価方法

＜3 年次＞　授業での発表・発言によって評価します。

＜4 年次＞　授業での発表・発言と論文によって評価します。

3. 使用テキスト

こちらから予め指定するものはありません。

4. 応募学生に望むこと

自分自身で問題を見出し、自分自身で考えるようにしてください。

できるだけ二つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

5. 選考方法

面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

7. その他

とくにありません。

29 宮本 大人 教授

---

1. 演習のテーマ
「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考える。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れる。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞
３～５名のグループで、フィールドワークや文献購読など、共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、６０００字から１００００字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。夏休みに３泊４日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

＜4年次＞
３年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、４年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は３年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みに２泊３日の卒論合宿を行う。課外活動等については３年次のゼミ生と一緒に行う。

（2）ゼミ論の有無
有り。２００００字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

（3）評価方法
発表（３０％）、ディスカッションへの貢献度（３０％）、期末の課題（３０％）、平常点（１０％）。

3. 使用テキスト
そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと
ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にｐｌａｙするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。
幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

5. 選考方法
事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

6. 演習入室までに学習してほしいこと
特になし。

7. その他

30 森川 嘉一郎 准教授

1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまなトピックや調査対象の中から個々に選び、研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、音楽 CD、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

各学期の前半は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。学期後半はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。創作的な「作品」を制作する場合には、各学期ごとに成果物を公表するとともに、その反響を簡単なレポートにまとめる。

＜4年次＞

３年次にまとめた成果と経験を下敷きにしながら、研究計画を再構築し、研究に歴史的・社会的な奥行きを与えていくことを追求する。創作を行う場合は、前年度の達成を踏まえて表現の幅や受容の拡大を目指す。

（2）ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ１冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

（3）評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ（http://edu.a.la9.jp/）を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

5. 選考方法

作文と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示する。留学中の場合は別途案内する。なお、選考期間の感染状況次第ではオンラインによる面接を行う）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみることが望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

30　MORIKAWA, Kaichiro　Associate Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

The seminar also offers an option to let the students produce artistic works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, and making computer games.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

In the first half of the semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable research methods. Digging and mining referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second half of the semester, more time shall be devoted to the execution of individual research, whether it be fieldwork, interviews, or experimentation. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

＜4 年次 / 4th Year＞

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce artistic works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

(3) 評価方法 / Evaluation

Weekly presentation（40%）、Semesterly presentation（40%）、Attitude（20%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Individually advised.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Refer to the seminar website: http://edu.a.la9.jp/

It is preferable that the student holds ideas as to what he/she wants to study, prior to applying to the seminar.

5. 選考方法 / Screening

Essay and interview. Details shall be announced at the online guidance, including changes that may occur due to COVID situation.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

Hunt for books related to the topics you plan to pursue in the seminar. If you are interested in producing artistic works, give it a try right away.

7. その他 / Others

The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

31 山脇 啓造 教授

1. 演習のテーマ

多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、東京都や中野区など行政や企業、NPO と連携して、対面やオンラインでのワークショップやプレゼンコンテストなどイベントを実施したり、多文化共生をテーマにした動画を制作したりします。地域密着、実践志向で社会連携に力を入れるゼミです。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞ 最初の２、３カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。

＜4年次＞ 多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。

(2) ゼミ論の有無

任意（書く場合は８０００字程度)。

(3) 評価方法

ゼミ活動への貢献（リーダーシップなど）を総合的に評価。(3、４年共通)

3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生（ET 生を含む）の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合もあり、サークルなどを理由とした欠席は認めません。

5. 選考方法

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の 3 日前までに提出してください:https://yamawaki-keizo.o0o0.jp/tabunka/seminar/）と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。(留学中の学生も原則としてオンラインで面接を行います。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」やダイバーシティ関連科目の履修。

7. その他

入室希望者は、演習案内ビデオやゼミのホームページに目を通し、個別ガイダンスに参加してください。3 年次の４月下旬に国内合宿、8 月下旬に海外合宿を行う予定です。イベントは、３年と４年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が２コマ連続となる場合があります。

32 横田 雅弘 教授

1. 演習のテーマ

ダイバーシティ推進のまちづくり ～ダイバーシティ・タウン・オン・キャンパスの実践～

「異文化」を「国際」に限らず、国内の多様性も含む「文化際」の概念で捉え、これをダイバーシティの推進として具体的に中野区で実現していく活動に参加します。これまでばらばらに活動していた性的マイノリティ―、外国人、障害者、高齢者などに関連する地域の団体や個人、企業や行政を中野キャンパスに集め、丸一日ダイバーシティのまち体験をするイベントを企画・運営します。

また、横田ゼミが 10 年間開催してきたヒューマンライブラリー(人を貸し出す図書館)を同日に主催します。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞

ダイバーシティに関する基本的な知識を獲得した後、現在の 3 年ゼミが 2022 年秋に計画しているダイバーシティ・タウン・オン・キャンパスにサポートとして参加し、そのノウハウを学び、人的なつながりを築きます。また、同日開催するヒューマンライブラリーでは、4 年生のサポートを受けて主催者として中核を担います。

＜4 年次＞

3 年次の活動でつながった人たちへのインタビューを集め、中野ダイバーシティ・オーラルビデオマップ(仮称)を作成し、既存の HP(ndp.tokyo)にアップします。2023 年度にも上記のイベントを開催するかどうかは、学生と相談して決めます。

(2) ゼミ論の有無

中野ダイバーシティ・オーラルビデオマップまたはイベント報告書をゼミ論とします。

(3) 評価方法

各種活動の報告や企画運営など、ゼミ活動への貢献を総合的に評価します。(3、４年共通)

3. 使用テキスト

テキストは特にありませんが、関連する著書・論文等を授業の中で紹介します。

4. 応募学生に望むこと

ダイバーシティとまちづくりに主体的に関わりたい方を歓迎します。

5. 選考方法

志望理由書と面接で選考します（詳細は個別ガイダンスの際に指示します)。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部開設科目の「異文化間教育学」を履修した／することが望ましいです。

7. その他

入室希望者は、必ず演習案内ビデオと HP(ndp.tokyo)ならびにヒューマンライブラリーに関するウェブサイト(https://humanlibrary.org/)等に目を通し、個別ガイダンスに参加してください。合宿は学生の希望やコロナの状況等をみて判断します。

33 渡 浩一 教授

1. 演習のテーマ

「ニッポンの歴史と文化」をテーマとします。

日本の歴史と文化を国際日本学的な視野から見つめ直し、日本・日本人・日本文化について考えてみたいと思います。

ちなみに、渡の主な関心研究領域は、日本人の信仰と文化、外国人の見た日本・日本人、外来文化の日本的変容、日欧文化交流史などで、時代的には中世～近代（明治）と広く関心があります。研究のキイワードは江戸文化・日本人論・日本文化論・死生観・冥界観・日本仏教・家制度・唱導・絵解き・地蔵・地獄・子ども・南蛮文化・キリシタン・イソップ寓話・阿蘭陀人・和食などです。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

春学期はテキストを議論しながら輪読していきます。必要に応じて、議論を踏まえた発表・討論も随時行います。秋学期はそれを踏まえ、学生と相談しながら進め方を決めたいと思います。

＜4年次＞

春学期は、ゼミ論の構想を練り上げ、その執筆準備をしていってもらいます。秋学期は、ゼミ論の執筆とその中間報告をしてもらい、1月に提出してもらいます。

（2）ゼミ論の有無

20,000 字以上の論文を提出してもらいたいと考えています。

（3）評価方法

＜３年次＞　テキスト読解・発表（50%）　発言回数・内容（50%）
＜４年次春学期＞　テキスト読解・発表（50%）　発言回数・内容（50%）
＜４年次秋学期＞　論文（80%）　発言回数・内容（20%）

3. 使用テキスト

ニッポンの歴史と文化について考えるのに有用と思われる文献を学生と相談してテキストとして選びたいと思います。

4. 応募学生に望むこと

「自ら調べ、自ら学ぶ」という姿勢で研究に取り組んでほしいと思います。

5. 選考方法

面接によります。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

基本的な日本史の知識は身につけておいてほしいと思います。

7. その他

ゼミ生は3年生１人（留学中）、4年生１人です。これまで応募者無し、応募者１名のみということは何度かありました。一人になっても構わないという人は応募してください。

34 ワルド ライアン 専任講師

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

1. 演習のテーマ

「死」の日本宗教史

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史における「死」の意味合いとその歴史的変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

進行形式としては、日本の宗教史と「死」の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

＜4年次＞

同上

（2）ゼミ論の有無

有り

（3）評価方法

＜３年次＞　平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

＜４年次＞　平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

3. 使用テキスト

プリントを配布する。

4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

ゼミ合宿（場所検討中）を行う予定です。

34 WARD, Ryan Senior Assistant Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar is intended for students who are interested in religious studies, mental health care, and questions concerning life and death.　The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

In past seminars students have dealt with topics concerning as Japanese religion, psychiatry, bioethics, religion and art, and cross-cultural comparisons of life and death.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3年次 / 3rd Year＞

The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

＜4 年次 / 4th Year＞

Same as above.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes

(3) 評価方法 / Evaluation

3rd Year: Attendance (40%), Presentation(30%),Report(30%)

4th Year: Attendance (20%), Presentation(20%),Thesis(60%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Various handouts will be distributed in class as needed.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

As the topics we deal with are of a highly serious nature, only highly serious students are welcome. Expect to do a lot of work.

5. 選考方法 / Screening

Interview will be prepared.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他 / Others

Seminar events will be announced.

2022 年度　国際日本学部演習案内

2021 年 11 月 10 日　　印刷・発行

編集・発行　　明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1